

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5761456号
(P5761456)

(45) 発行日 平成27年8月12日 (2015. 8. 12)

(24) 登録日 平成27年6月19日 (2015. 6. 19)

(51) Int. Cl.

F I

G O 2 F 1/1335 (2006. 01)

G O 2 F 1/1335 5 0 5

G O 2 F 1/13 (2006. 01)

G O 2 F 1/13 5 0 0

G O 2 B 5/20 (2006. 01)

G O 2 B 5/20 1 0 1

C O 9 K 19/42 (2006. 01)

C O 9 K 19/42

C O 9 K 19/32 (2006. 01)

C O 9 K 19/32

請求項の数 14 (全 66 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2014-515394 (P2014-515394)

(86) (22) 出願日 平成25年8月22日 (2013. 8. 22)

(86) 国際出願番号 PCT/JP2013/072425

(87) 国際公開番号 W02014/041985

(87) 国際公開日 平成26年3月20日 (2014. 3. 20)

審査請求日 平成26年4月2日 (2014. 4. 2)

(31) 優先権主張番号 特願2012-199423 (P2012-199423)

(32) 優先日 平成24年9月11日 (2012. 9. 11)

(33) 優先権主張国 日本国 (JP)

早期審査対象出願

前置審査

(73) 特許権者 000002886

D I C株式会社

東京都板橋区坂下3丁目35番58号

(74) 代理人 100124970

弁理士 河野 通洋

(72) 発明者 金親 昌和

埼玉県北足立郡伊奈町小室4472-1D

I C株式会社 埼玉工場内

(72) 発明者 竹内 清文

埼玉県北足立郡伊奈町小室4472-1D

I C株式会社 埼玉工場内

(72) 発明者 船倉 省二

茨城県神栖市東深芝18番地D I C株式会

社 鹿島工場内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 液晶表示装置

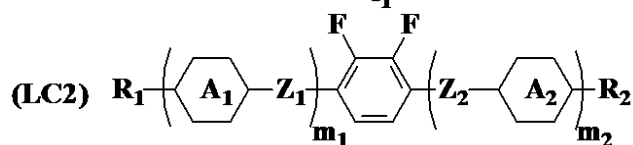
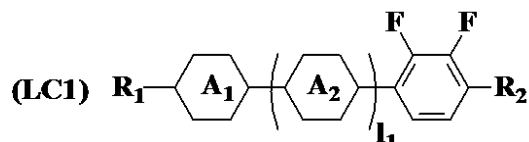
(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第一の基板と、第二の基板と、前記第一の基板と第二の基板間に挟持された液晶組成物層と、ブラックマトリクス及び少なくとも R G B 三色画素部から構成されるカラーフィルタと、画素電極と共通電極とを備え、

前記液晶組成物層が一般式 (L C 1) から一般式 (L C 2)

【化 1】

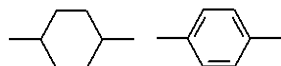


(式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ~ 15 のアルキル基を表し、該アルキル基中の 1 つ又は 2 つ以上の CH_2 基は、酸素原子が直接隣接しないように、 $-\text{O}-$ 、 $-\text{CH}=\text{CH}-$ 、 $-\text{CO}-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、 $-\text{COO}-$ 、 $-\text{C}\equiv\text{C}-$ 、 $-\text{CF}_2\text{O}-$ 又は $-\text{OCF}_2-$ で置換されてよく、該アルキル基中の 1 つ又は 2 つ以上の水素原子は任意にハロゲン置換されていてもよく、 A_1 及び A_2 はそれぞれ独立して下記の構造

10

20

【化 2】



のいずれかを表し、 $Z_1 \sim Z_2$ はそれぞれ独立して単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C \equiv C-$ 、 $-CH_2CH_2-$ 、 $-(CH_2)_4-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCH_2-$ 、 $-CH_2O-$ 、 $-OCF_2-$ 又は $-CF_2O-$ を表し、存在する Z_1 及び Z_2 の内少なくとも 1 つは単結合でなく、 l_1 は 0 又は 1 を表し、 m_1 及び m_2 はそれぞれ独立して 0 ~ 3 を表し、 $m_1 + m_2$ は 1、2 又は 3 である。)

で表される化合物群から選ばれる 1 種又は 2 種以上の化合物を含有する液晶組成物から構成され、前記 RGB 三色画素部が、色材として、水溶分が 0 質量%以上 1.5 質量%以下及び / 又は比電導度が $10 \mu S / cm$ 以上 $150 \mu S / cm$ 以下の顔料を含有することを特徴とする液晶表示装置。

10

【請求項 2】

前記 RGB 三色画素部が、色材として、水溶分が 0 質量%以上 1.0 質量%以下且つ比電導度が $10 \mu S / cm$ 以上 $100 \mu S / cm$ 以下の顔料を含有することを特徴とする請求項 1 記載の液晶表示装置。

【請求項 3】

前記 RGB 三色画素部が、色材として、R 画素部中にジケトピロロピロール系赤色顔料を、G 画素部中にハロゲン化金属フタロシアニン顔料を、B 画素部中に ϵ 型フタロシニアン顔料及び / 又はトリアリールメタン顔料を含有する請求項 1 又は 2 記載の液晶表示装置。

20

【請求項 4】

前記 G 画素部中に含有するハロゲン化金属フタロシアニン顔料が、Al、Si、Sc、Ti、V、Mg、Fe、Co、Ni、Zn、Cu、Ga、Ge、Y、Zr、Nb、In、Sn 及び Pb からなる群から選ばれる金属を中心金属として有するハロゲン化金属フタロシアニン顔料であり、その中心金属が三価の場合には、その中心金属には 1 つのハロゲン原子、水酸基又はスルホン酸基のいずれかが結合しているか、又はオキソ又はチオ架橋しており、その中心金属が四価金属の場合には、その中心金属には 1 つの酸素原子又は同一でも異なっても良い 2 つのハロゲン原子、水酸基又はスルホン酸基のいずれかが結合しているハロゲン化金属フタロシアニン顔料である請求項 3 項に記載の液晶表示装置。

【請求項 5】

30

前記 G 画素部中に含有するハロゲン化金属フタロシアニン顔料が、C. I. Pigment Green 58 である請求項 3 又は 4 に記載の液晶表示装置。

【請求項 6】

前記 B 画素部中に含有する ϵ 型フタロシニアン顔料が、C. I. Pigment Blue 15 : 6 である請求項 3 ~ 5 の何れか一項に記載の液晶表示装置。

【請求項 7】

前記 R 画素部中に含有するジケトピロロピロール系赤色顔料が、C. I. Pigment Red 254、同 255、同 264、同 272、Orange 71 及び同 73 から選ばれる 1 種又は 2 種以上である請求項 3 ~ 6 の何れか一項に記載の液晶表示装置。

【請求項 8】

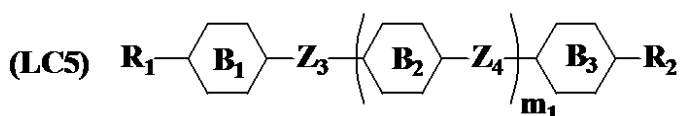
40

カラーフィルタが、ブラックマトリックスと RGB 三色画素部と Y 画素部とから構成され、色材として、Y 画素部に、水溶分が 1.5 % 以下及び / 又は比電導度が $150 \mu S / cm$ 以下の顔料を含有する請求項 1 ~ 7 の何れか一項に記載の液晶表示装置。

【請求項 9】

前記液晶組成物層として、一般式 (LC5)

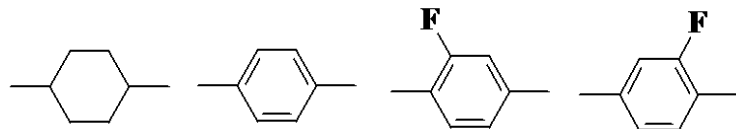
【化 3】



50

(式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ~ 15 のアルキル基を表し、該アルキル基中の 1 つ又は 2 つ以上の CH_2 基は、酸素原子が直接隣接しないように、 $-O-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-CO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-COO-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-CF_2O-$ 又は $-OCF_2-$ で置換されてよく、該アルキル基中の 1 つ又は 2 つ以上の水素原子は任意にハロゲン置換されていてもよく、 $B_1 \sim B_3$ はそれぞれ独立して下記

【化 4】



10

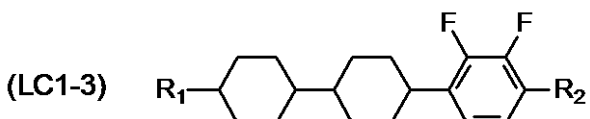
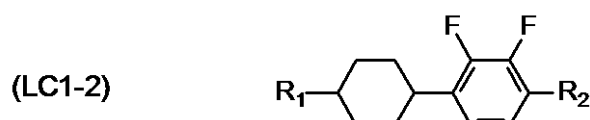
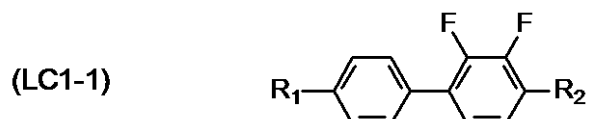
(式中、シクロヘキサン環中の 1 つ又は 2 つ以上の CH_2CH_2 基は $-CH=CH-$ 、 $-CF_2O-$ 、 $-OCF_2-$ で置換されていてもよく、ベンゼン環中の 1 つ又は 2 つ以上の CH 基は窒素原子で置換されていてもよい。) のいずれかを表し、 Z_3 及び Z_4 はそれぞれ独立して単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-CH_2CH_2-$ 、 $-(CH_2)_4-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCH_2-$ 、 $-CH_2O-$ 、 $-OCF_2-$ 又は $-CF_2O-$ を表し、該 Z_3 及び Z_4 の内少なくとも 1 つは単結合でなく、 m_1 は 0 ~ 3 を表す。) で表される化合物を 1 種又は 2 種以上含有する液晶組成物を使用する請求項 1 ~ 8 の何れか一項に記載の液晶表示装置。

【請求項 10】

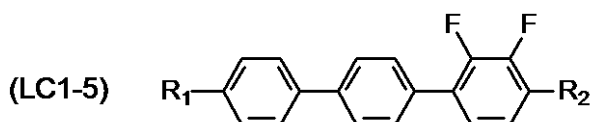
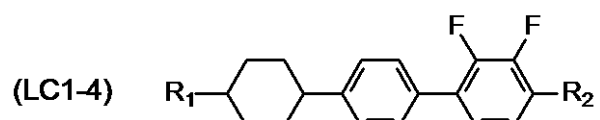
一般式 (LC1) が下記一般式 (LC1) - 1 から一般式 (LC1) - 7

20

【化 5】



30



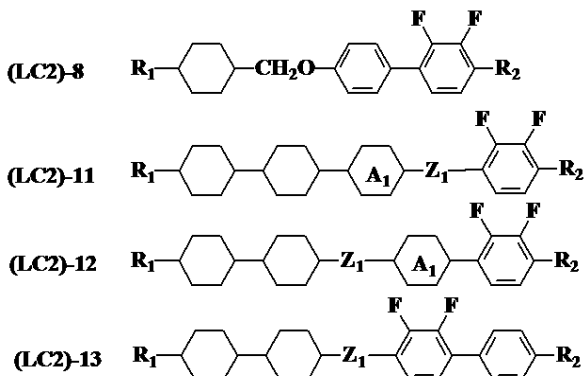
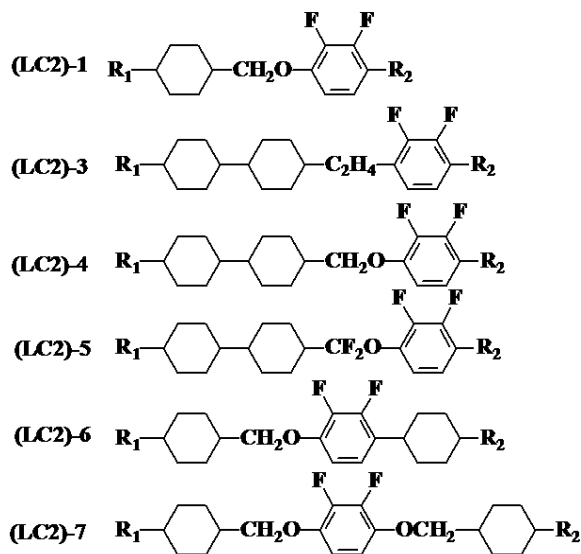
(式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ~ 7 のアルキル基、炭素数 1 ~ 7 のアルコキシ基、炭素数 2 ~ 7 のアルケニル基及び炭素数 2 ~ 7 のアルケニルオキシ基を表す。) で表される化合物からなる群より選ばれる 1 種又は 2 種以上の化合物である請求項 1 ~ 9 の何れか一項に記載の液晶表示装置。

40

【請求項 11】

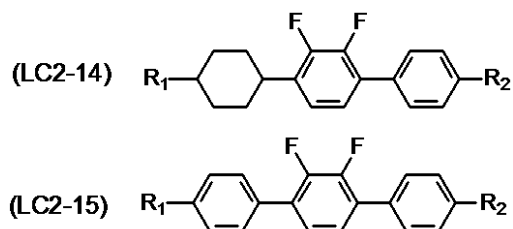
一般式 (LC2) が下記一般式 (LC2) - 1 から一般式 (LC2) - 15

【化 6】



10

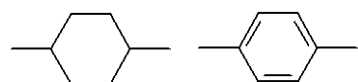
【化 7】



20

(式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ~ 7 のアルキル基、炭素数 1 ~ 7 のアルコキシ基、炭素数 2 ~ 7 のアルケニル基又は炭素数 2 ~ 7 のアルケニルオキシ基を表し、 Z^1 は $-CH_2CH_2-$ 、 $-OCH_2-$ 、 $-CH_2O-$ 、 $-OCF_2-$ 又は $-CF_2O-$ を表し、 A^1 は下記の構造

【化 8】



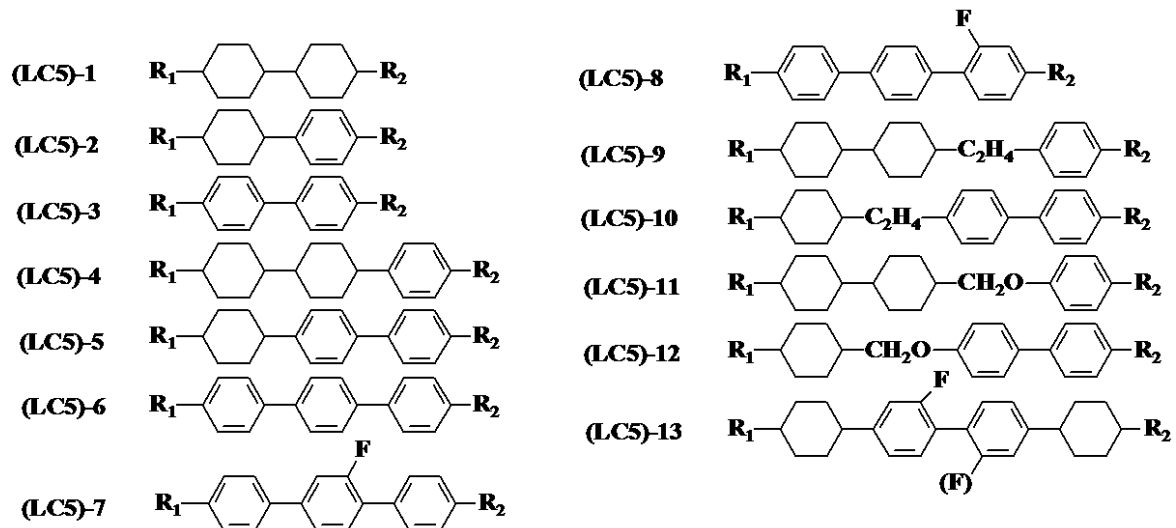
30

のいずれかを表す。) で表される化合物からなる群より選ばれる 1 種又は 2 種以上の化合物である請求項 1 ~ 10 の何れか一項に記載の液晶表示装置。

【請求項 12】

一般式 (LC5) が一般式 (LC5) - 1 から一般式 (LC5) - 13

【化 9】



(式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ~ 7 のアルキル基、炭素数 1 ~ 7 のアルコキシ基、炭素数 2 ~ 7 のアルケニル基又は炭素数 2 ~ 7 のアルケニルオキシ基を表す。) で表される化合物からなる群より選ばれる 1 種又は 2 種以上の化合物である請求項 9 記載の液晶表示装置。

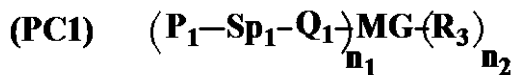
【請求項 13】

前記液晶組成物層が重合性化合物を 1 種又は 2 種以上含有する液晶組成物を重合してなる重合体により構成される請求項 1 ~ 12 の何れか一項に記載の液晶表示装置。

【請求項 14】

重合性化合物が一般式 (PC1)

【化 10】



(式中、 P_1 は重合性官能基を表し、 Sp_1 は炭素原子数 0 ~ 20 のスペーサー基を表し、 Q_1 は単結合、 $-O-$ 、 $-NH-$ 、 $-NHCOO-$ 、 $-OCONH-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-CO-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-OCOO-$ 、 $-OOCO-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-CH=CH-COO-$ 、 $-OCO-CH=CH-$ 又は $-C\equiv C-$ を表し、 n_1 、 n_2 は 1、2 又は 3 を表し、 MG はメソゲン基又はメソゲン性支持基を表し、 R_3 は、ハロゲン原子、シアノ基又は炭素原子数 1 ~ 25 のアルキル基を表し、該アルキル基中の 1 つ又は 2 つ以上の CH_2 基は、酸素原子が直接隣接しないように、 $-O-$ 、 $-S-$ 、 $-NH-$ 、 $-N(CH_3)-$ 、 $-CO-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-OCOO-$ 、 $-SCO-$ 、 $-COS-$ 又は $-C\equiv C-$ より置き換えられていても良く、あるいは R_3 は $P_2-Sp_2-Q_2$ (式中、 P_2 、 Sp_2 、 Q_2 はそれぞれ独立して P_1 、 Sp_1 、 Q_1 と同じ意味を表す。) を表す。) で表される重合性化合物である請求項 13 記載の液晶表示装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、液晶表示装置に関する。

【背景技術】

【0002】

液晶表示装置は、時計、電卓をはじめとして、家庭用各種電気機器、測定機器、自動車用パネル、ワープロ、電子手帳、プリンター、コンピューター、テレビ等に用いられるようになっている。液晶表示方式としては、その代表的なものに TN (捩れネマチック) 型、STN (超捩れネマチック) 型、DS (動的散乱) 型、GH (ゲスト・ホスト) 型、IPS (インプレーンスイッチング) 型、OCB (光学補償複屈折) 型、ECB (電圧制

御複屈折)型、VA(垂直配向)型、CSH(カラスーパーホメオトロピック)型、あるいはFLC(強誘電性液晶)等を挙げることができる。また駆動方式としても従来のスタティック駆動からマルチプレックス駆動が一般的になり、単純マトリックス方式、最近ではTFT(薄膜トランジスタ)やTFD(薄膜ダイオード)等により駆動されるアクティブマトリックス(AM)方式が主流となっている。

【0003】

一般的なカラー液晶表示装置は、図1に示すように、それぞれ配向膜(4)を有する2枚の基板(1)の一方の配向膜と基板の間に、共通電極となる透明電極層(3a)及びカラーフィルタ層(2)を備え、もう一方の配向膜と基板の間に画素電極層(3b)を備え、これらの基板を配向膜同士が対向するように配置し、その間に液晶層(5)を挟持して構成されている。

10

前記カラーフィルタ層は、ブラックマトリックスと赤色着色層(R)、緑色着色層(G)、青色着色層(B)、及び必要に応じて黄色着色層(Y)から構成されるカラーフィルタにより構成される。

【0004】

液晶層を構成する液晶材料は、材料中に不純物が残留すると表示装置の電気的特性に大きな影響を及ぼすことから不純物についての高度な管理がなされてきた。又、配向膜を形成する材料に関しても配向膜は液晶層が直接接触し、配向膜中に残存した不純物が液晶層に移動することにより、液晶層の電気的特性に影響を及ぼすことは既に知られており、配向膜材料中の不純物に起因する液晶表示装置の特性についての検討がなされつつある。

20

【0005】

一方、カラーフィルタ層に用いられる有機顔料等の材料についても、配向膜材料と同様に含有する不純物による、液晶層への影響が想定される。しかし、カラーフィルタ層と液晶層の間には、配向膜と透明電極が介在するため、液晶層への直接的な影響は配向膜材料と比較して大幅に少ないものと考えられていた。しかし、配向膜は通常0.1μm以下の膜厚に過ぎず、透明電極もカラーフィルタ層側に用いられる共通電極は導電率を上げるために膜厚を上げたものでも通常0.5μm以下である。従って、カラーフィルタ層と液晶層は完全に隔離された環境におかれているとは言えず、カラーフィルタ層が、配向膜及び透明電極を介してカラーフィルタ層に含まれる不純物により、液晶層の電圧保持率(VHR)の低下、イオン密度(ID)の増加による白抜け、配向むら、焼き付きなどの表示不良を発現する可能性がある。

30

【0006】

カラーフィルタを構成する顔料に含まれる不純物に起因した表示不良を解決する方法として、顔料の蟻酸エチルによる抽出物の割合を特定値以下とした顔料を用いて、不純物の液晶への溶出を制御する方法(特許文献1)や青色着色層中の顔料を特定することで不純物の液晶への溶出を制御する方法(特許文献2)が検討されてきた。しかしながら、これらの方法では顔料中の不純物を単純に低減することと大きな差異はなく、近年、顔料の精製技術が進歩している現状においても表示不良を解決するための改良としては不十分なものであった。

【0007】

40

一方、カラーフィルタ中に含まれる有機不純物と液晶組成物の関係に着目し、この有機不純物の液晶層への溶解しにくさを液晶層に含まれる液晶分子の疎水性パラメーターによって表し、この疎水性パラメーターの値を一定値以上とする方法やこの疎水性パラメーターと液晶分子末端の $-OCF_3$ 基に相関関係があることから、液晶分子末端に $-OCF_3$ 基を有する液晶化合物を一定割合以上含有する液晶組成物とする方法(特許文献3)が開示されている。しかしながら、当該引用文献の開示においても顔料中の不純物による液晶層への影響を抑えることが発明の本質となっており、カラーフィルタに使用される顔料と液晶材料の全体構造との直接的な関係については検討が行われていなかった。

【0008】

また、顔料を脱イオン水で洗浄し、洗浄処理後の脱イオン水ろ液の比電導度を20μS

50

／c m以下まで洗浄した顔料を用いることで電圧保持率（VHR）が優れることが開示されているが、顔料自体の比電導度についての記載はなく、その電圧保持率も95%程度であり（特許文献4）、近年高度化する液晶表示素子の表示不良を解決できるものではなかった。

さらに、顔料の水溶分及び比電導度は、防錆塗料の防錆効果や、インクジェットインキの吐出性に影響を与えることは知られていたが（特許文献5～6）、顔料の水溶分及び比電導度と液晶層を構成する液晶材料の構造の組合せが液晶表示素子の表示不良に与える影響については知られておらず、高度化する液晶表示装置の表示不良問題の解決には至っていなかった。

【先行技術文献】

10

【特許文献】

【0009】

【特許文献1】特開2000-19321号公報

【特許文献2】特開2009-109542号公報

【特許文献3】特開2000-192040号公報

【特許文献4】特開2009-7432号公報

【特許文献5】特開2008-144105号公報

【特許文献6】特開2010-260997号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

20

【0010】

本発明は、特定の液晶組成物と特定の水溶分及び／又は比電導度を有する顔料を使用したカラーフィルタを用いることで、液晶層の電圧保持率（VHR）の低下、イオン密度（ID）の増加を防止し、白抜け、配向むら、焼き付けなどの表示不良の問題を解決する液晶表示装置を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0011】

本願発明者らは、上記課題を解決するためにカラーフィルタを構成する顔料の水溶分及び／又は比電導度、及び液晶層を構成する液晶材料の構造の組み合わせについて鋭意検討した結果、特定の液晶材料の構造及び特定の水溶分及び／又は比電導度を有する顔料を使用したカラーフィルタを用いた液晶表示装置が、液晶層の電圧保持率（VHR）の低下、イオン密度（ID）の増加を防止し、白抜け、配向むら、焼き付きなどの表示不良の問題を解決することを見出し本願発明の完成に至った。

30

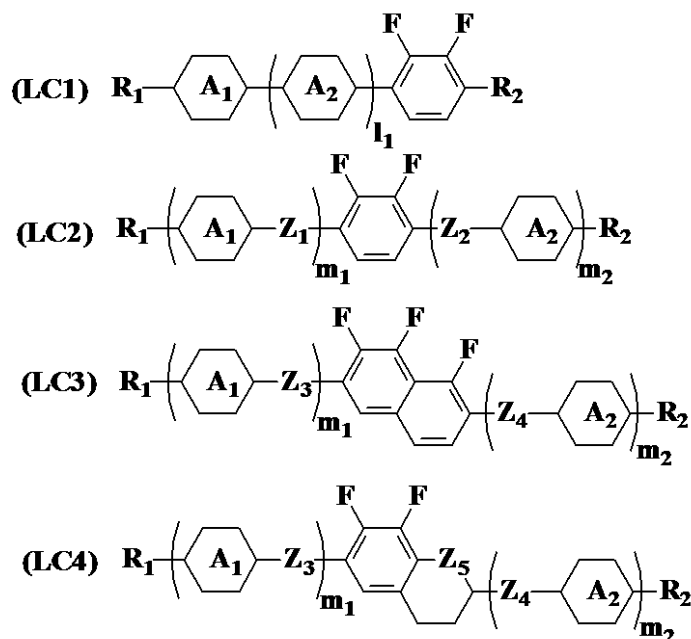
【0012】

即ち、本発明は、
第一の基板と、第二の基板と、前記第一の基板と第二の基板間に挟持された液晶組成物層と、ブラックマトリックス及び少なくともRGB三色画素部から構成されるカラーフィルタと、画素電極と共通電極とを備え、
前記液晶組成物層が一般式（LC1）から一般式（LC4）

【0013】

40

【化 1】



10

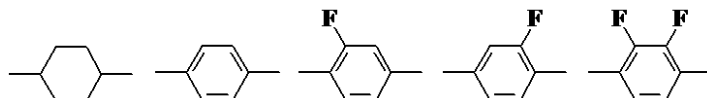
【 0 0 1 4 】

(式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ~ 15 のアルキル基を表し、該アルキル基中の 1 つ又は 2 つ以上の CH_2 基は、酸素原子が直接隣接しないように、 $-O-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-CO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-COO-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-CF_2O-$ 又は $-OCF_2-$ で置換されてよく、該アルキル基中の 1 つ又は 2 つ以上の水素原子は任意にハロゲン置換されていてもよく、 A_1 及び A_2 はそれぞれ独立して下記の構造

20

【 0 0 1 5 】

【化 2】



【 0 0 1 6 】

(該構造中シクロヘキサン環の 1 つ又は 2 つ以上の CH_2 基は酸素原子で置換されていてもよく、該構造中ベンゼン環の 1 つ又は 2 つ以上の CH 基は窒素原子で置換されていてもよく、また、該構造中の 1 つ又は 2 つ以上の水素原子は F 、 Cl 、 CF_3 又は OCF_3 で置換されていてもよい。) のいずれかを表し、 $Z_1 \sim Z_4$ はそれぞれ独立して単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-CH_2CH_2-$ 、 $-(CH_2)_4-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCH_2-$ 、 $-CH_2O-$ 、 $-OCF_2-$ 又は $-CF_2O-$ を表し、 Z_5 は CH_2 基又は酸素原子を表し、存在する Z_1 及び Z_2 の内少なくとも 1 つは単結合でなく、 l_1 は 0 又は 1 を表し、 m_1 及び m_2 はそれぞれ独立して 0 ~ 3 を表し、 $m_1 + m_2$ は 1、2 又は 3 である。)

30

で表される化合物群から選ばれる 1 種又は 2 種以上の化合物を含有する液晶組成物から構成され、前記 RGB 三色画素部が、色材として、水溶分が 0 質量%以上、1.5 質量%以下及び / 又は比電導度が $10 \mu S/cm$ 以上、 $150 \mu S/cm$ 以下の顔料を含有することを特徴とする液晶表示装置を提供する。

40

【発明の効果】

【 0 0 1 7 】

本発明の液晶表示装置は、特定の液晶組成物と特定の水溶分及び / 又は比電導度を有する顔料を使用したカラーフィルタを用いることで、液晶層の電圧保持率 (VHR) の低下、イオン密度 (ID) の増加を防止することができ、白抜け、配向むら、焼き付けなどの表示不良の発生を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

50

【 0 0 1 8 】

【図 1】従来の一般的な液晶表示装置の一例を示す図である。

【図 2】本発明の液晶表示装置の一例を示す図である。

【符号の説明】

【 0 0 1 9 】

- 1 基板
- 2 カラーフィルタ層
- 2 a 特定の顔料を含有するカラーフィルタ層
- 3 a 透明電極層（共通電極）
- 3 b 画素電極層
- 4 配向膜
- 5 液晶層
- 5 a 特定の液晶組成物を含有する液晶層

【発明を実施するための形態】

【 0 0 2 0 】

本発明の液晶表示装置の一例を図 2 に示す。配向膜（4）を有する第一の基板と第二の基板の 2 枚の基板（1）の一方の配向膜と基板の間に、共通電極となる透明電極層（3 a）及び特定の顔料を含有するカラーフィルタ層（2 a）を備え、もう一方の配向膜と基板の間に画素電極層（3 b）を備え、これらの基板を配向膜同士が対向するように配置し、その間に特定の液晶組成物を含有する液晶層（5 a）を挟持して構成されている。

前記表示装置における 2 枚の基板は、周辺領域に配置されたシール材及び封止材によって貼り合わされていて、多くの場合その間には基板間距離を保持するために粒状スペーサーまたはフォトリソグラフィ法により形成された樹脂からなるスペーサー柱が配置されている。

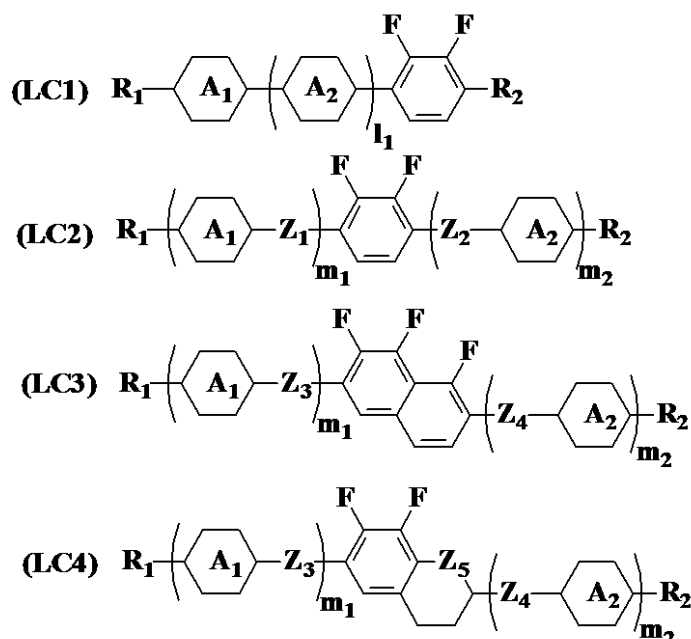
【 0 0 2 1 】

（液晶層）

本発明の液晶表示装置における液晶層は、一般式（LC1）から一般式（LC4）

【 0 0 2 2 】

【化 3】



【 0 0 2 3 】

（式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ～ 15 のアルキル基を表し、該アルキル基中の 1 つ又は 2 つ以上の CH_2 基は、酸素原子が直接隣接しないように、 $-\text{O}-$ 、 $-\text{CH}=\text{CH}-$ 、 $-\text{CO}-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、 $-\text{COO}-$ 、 $-\text{C}\equiv\text{C}-$ 、 $-\text{CF}_2\text{O}-$ 又は $-\text{O}$

10

20

30

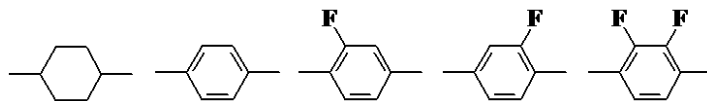
40

50

CF₂-で置換されてよく、該アルキル基中の1つ又は2つ以上の水素原子は任意にハロゲン置換されていてもよく、A₁及びA₂はそれぞれ独立して下記の構造

【0024】

【化4】



【0025】

(該構造中シクロヘキサン環の1つ又は2つ以上のCH₂基は酸素原子で置換されていてもよく、該構造中ベンゼン環の1つ又は2つ以上のCH基は窒素原子で置換されていてもよく、また、該構造中の1つ又は2つ以上の水素原子はF、Cl、CF₃又はOCF₃で置換されていてもよい。)のいずれかを表し、Z₁~Z₄はそれぞれ独立して単結合、-CH=CH-、-C≡C-、-CH₂CH₂-、-(CH₂)₄-、-COO-、-OCH₂-、-CH₂O-、-OCF₂-又は-CF₂O-を表し、Z₅はCH₂基又は酸素原子を表し、存在するZ₁及びZ₂の内少なくとも1つは単結合でなく、l₁は0又は1を表し、m₁及びm₂はそれぞれ独立して0~3を表し、m₁+m₂は1、2又は3である。)で表される化合物群から選ばれる1種又は2種以上の化合物を含有する液晶組成物から構成される。

10

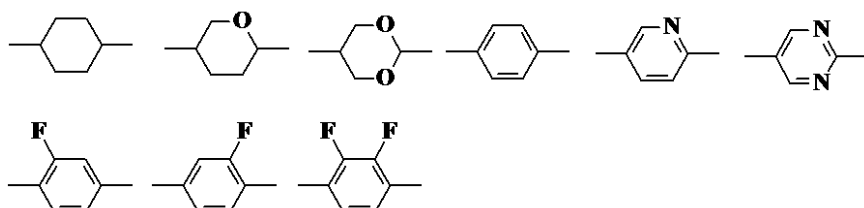
R₁及びR₂は、それぞれ独立して、炭素数1~7のアルキル基、炭素数1~7のアルコキシ基、炭素数2~7のアルケニル基が好ましく、

20

A₁及びA₂はそれぞれ独立して下記の構造が好ましく、

【0026】

【化5】



【0027】

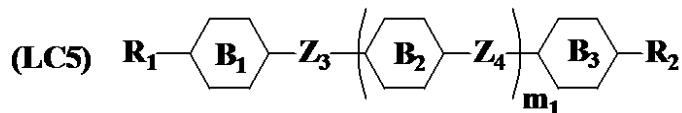
Z₁~Z₄はそれぞれ独立して単結合、-CH₂CH₂-、-COO-、-OCH₂-、-CH₂O-、-OCF₂-又は-CF₂O-が好ましい。

30

上記液晶組成物は、更に一般式(LC5)

【0028】

【化6】



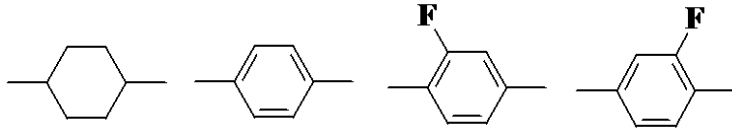
【0029】

(式中、R₁及びR₂はそれぞれ独立して炭素数1~15のアルキル基を表し、該アルキル基中の1つ又は2つ以上のCH₂基は、酸素原子が直接隣接しないように、-O-、-CH=CH-、-CO-、-OCO-、-COO-、-C≡C-、-CF₂O-又は-OCF₂-で置換されてよく、該アルキル基中の1つ又は2つ以上の水素原子は任意にハロゲン置換されていてもよく、B₁~B₃はそれぞれ独立して下記

40

【0030】

【化 7】



【0031】

(式中、シクロヘキサン環中の1つ又は2つ以上の CH_2CH_2 基は $-\text{CH}=\text{CH}-$ 、 $-\text{CF}_2\text{O}-$ 、 $-\text{OCF}_2-$ で置換されていてもよく、ベンゼン環中の1つ又は2つ以上の CH 基は窒素原子で置換されていてもよい。)のいずれかを表し、 Z_3 及び Z_4 はそれぞれ独立して単結合、 $-\text{CH}=\text{CH}-$ 、 $-\text{C}\equiv\text{C}-$ 、 $-\text{CH}_2\text{CH}_2-$ 、 $-(\text{CH}_2)_4-$ 、 $-\text{COO}-$ 、 $-\text{OCH}_2-$ 、 $-\text{CH}_2\text{O}-$ 、 $-\text{OCF}_2-$ 又は $-\text{CF}_2\text{O}-$ を表し、該 Z_3 及び Z_4 の内少なくとも1つは単結合でなく、 m_1 は0~3を表す。)で表される化合物を1種又は2種以上含有する液晶組成物が好ましい。

10

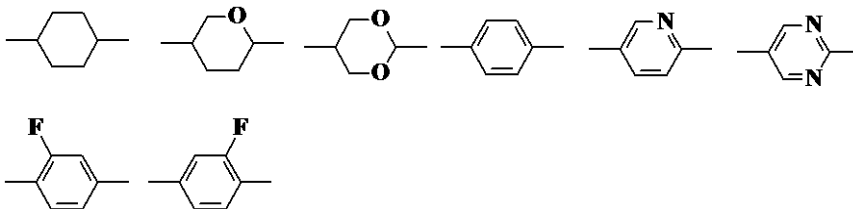
【0032】

R_1 及び R_2 は、それぞれ独立して、炭素数1~7のアルキル基、炭素数1~7のアルコキシ基、炭素数2~7のアルケニル基が好ましく、

$B_1 \sim B_3$ はそれぞれ独立して下記の構造が好ましく、

【0033】

【化 8】



20

【0034】

Z_3 及び Z_4 はそれぞれ独立して単結合、 $-\text{CH}_2\text{CH}_2-$ 、 $-\text{COO}-$ 、 $-\text{OCH}_2-$ 、 $-\text{CH}_2\text{O}-$ 、 $-\text{OCF}_2-$ 又は $-\text{CF}_2\text{O}-$ が好ましい。

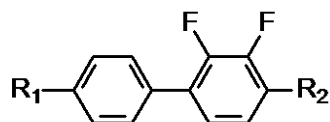
一般式(LC1)は、下記一般式(LC1)-1から一般式(LC1)-7

【0035】

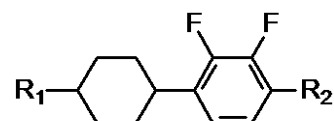
30

【化 9】

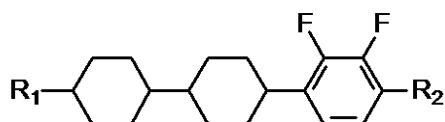
(LC1-1)



(LC1-2)

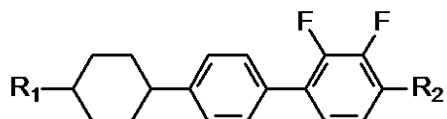


(LC1-3)

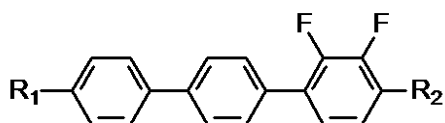


10

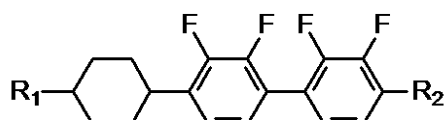
(LC1-4)



(LC1-5)

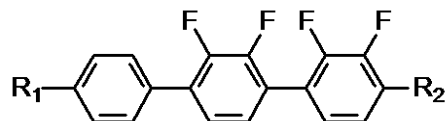


(LC1-6)



20

(LC1-7)



【 0 0 3 6 】

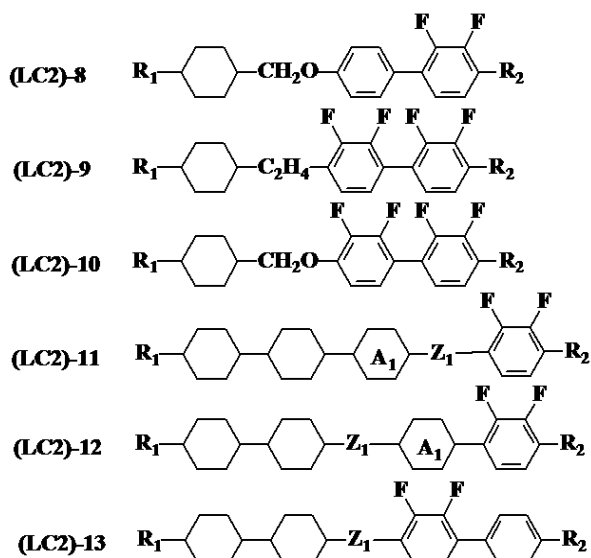
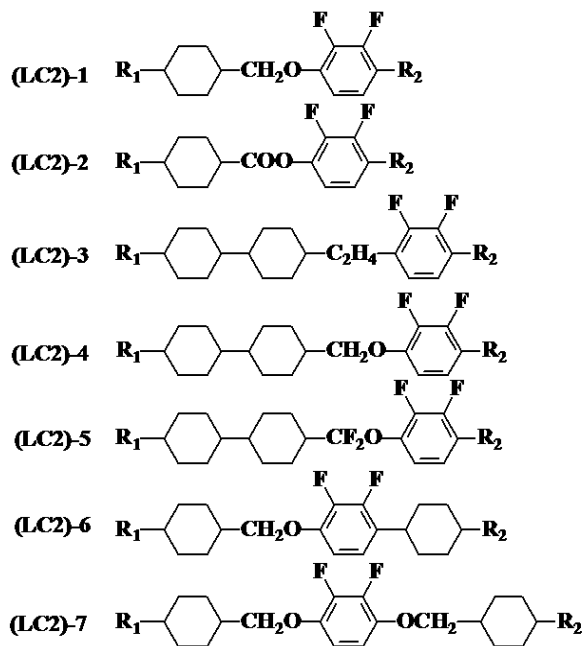
(式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ~ 7 のアルキル基、炭素数 1 ~ 7 のアルコキシ基、炭素数 2 ~ 7 のアルケニル基及び炭素数 2 ~ 7 のアルケニルオキシ基を表す。) で表される化合物からなる群より選ばれる 1 種又は 2 種以上の化合物であるのがより好ましい。

30

一般式 (LC2) は、下記一般式 (LC2) - 1 から一般式 (LC2) - 15

【 0 0 3 7 】

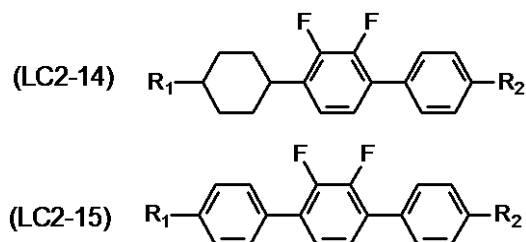
【化 1 0】



10

【 0 0 3 8】

【化 1 1】



20

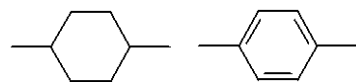
【 0 0 3 9】

(式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ~ 7 のアルキル基、炭素数 1 ~ 7 のアルコキシ基、炭素数 2 ~ 7 のアルケニル基又は炭素数 2 ~ 7 のアルケニルオキシ基を表し、 Z^1 は $-CH_2CH_2-$ 、 $-OCH_2-$ 、 $-CH_2O-$ 、 $-OCF_2-$ 又は $-CF_2O-$ を表し、 A^1 は下記の構造

30

【 0 0 4 0】

【化 1 2】



【 0 0 4 1】

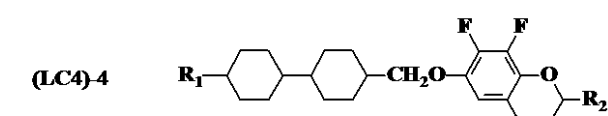
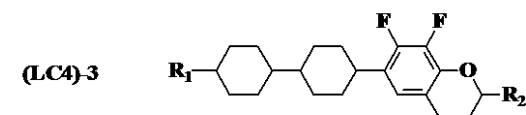
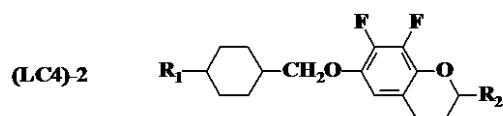
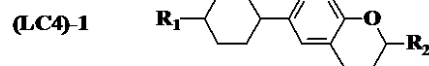
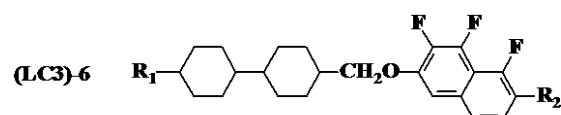
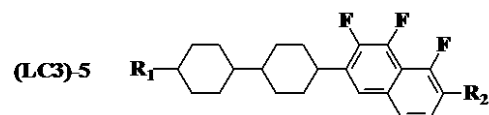
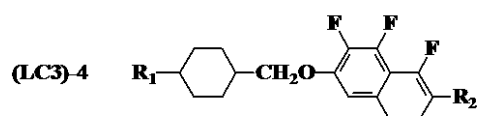
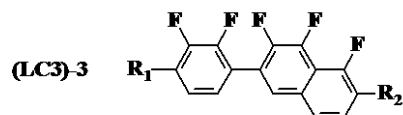
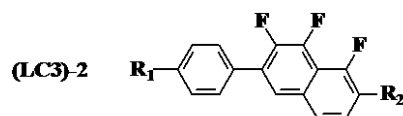
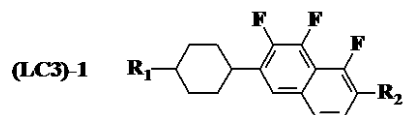
のいずれかを表す。) で表される化合物からなる群より選ばれる 1 種又は 2 種以上の化合物であることがより好ましい。

40

一般式 (LC3) は下記一般式 (LC3) - 1 から一般式 (LC3) - 6 であり、一般式 (LC4) は下記一般式 (LC4) - 1 から一般式 (LC4) - 4

【 0 0 4 2】

【化 1 3】



10

20

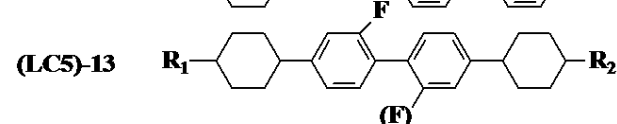
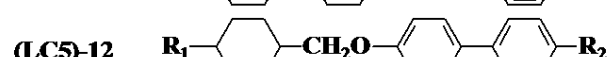
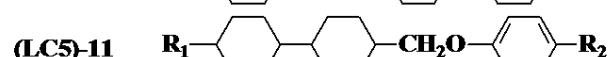
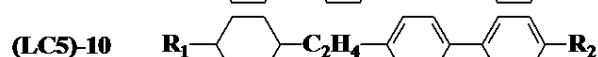
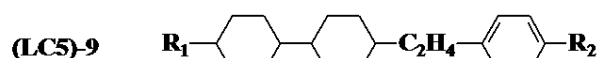
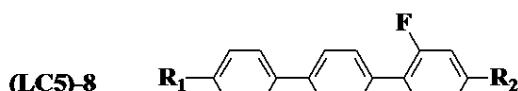
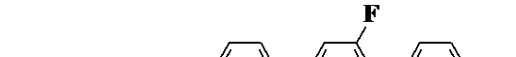
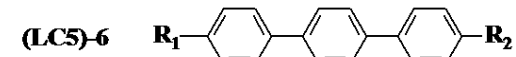
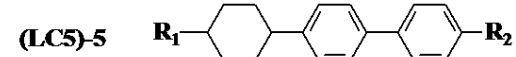
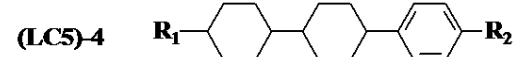
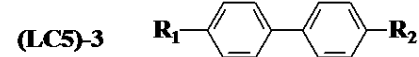
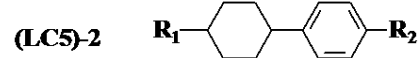
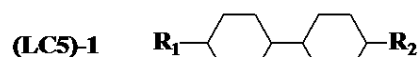
【 0 0 4 3】

(式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ~ 7 のアルキル基、炭素数 1 ~ 7 のアルコキシ基、炭素数 2 ~ 7 のアルケニル基又は炭素数 2 ~ 7 のアルケニルオキシ基を表す。) で表される化合物からなる群より選ばれる 1 種又は 2 種以上の化合物であるのがより好ましい。

一般式 (LC5) は、一般式 (LC5) - 1 から一般式 (LC5) - 13

【 0 0 4 4】

【化 1 4】



40

【 0 0 4 5】

(式中、 R_1 及び R_2 はそれぞれ独立して炭素数 1 ~ 7 のアルキル基、炭素数 1 ~ 7 のアルコキシ基、炭素数 2 ~ 7 のアルケニル基又は炭素数 2 ~ 7 のアルケニルオキシ基を表す。) で表される化合物からなる群より選ばれる 1 種又は 2 種以上の化合物であるのがより

50

好ましい。

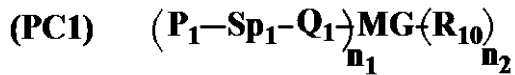
【 0 0 4 6 】

前記液晶組成物層は、重合性化合物を 1 種又は 2 種以上含有してもよい。

具体的には重合性化合物が一般式 (P C 1)

【 0 0 4 7 】

【 化 1 5 】



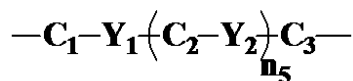
【 0 0 4 8 】

(式中、 P_1 は重合性官能基を表し、 Sp_1 は炭素原子数 0 ~ 20 のスペーサー基を表し、 Q_1 は単結合、 $-O-$ 、 $-NH-$ 、 $-NHCOO-$ 、 $-OCONH-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-CO-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-OCOO-$ 、 $-OOCO-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-CH=CH-COO-$ 、 $-OCO-CH=CH-$ 又は $-C\equiv C-$ を表し、 n_1 、 n_2 は 1、2 又は 3 を表し、 MG はメソゲン基又はメソゲン性支持基を表し、 R_{10} は、ハロゲン原子、シアノ基又は炭素原子数 1 ~ 25 のアルキル基を表し、該アルキル基中の 1 つ又は 2 つ以上の CH_2 基は、酸素原子が直接隣接しないように、 $-O-$ 、 $-S-$ 、 $-NH-$ 、 $-N(CH_3)-$ 、 $-CO-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-OCOO-$ 、 $-SCO-$ 、 $-COS-$ 又は $-C\equiv C-$ より置き換えられていても良く、あるいは R_{10} は $P_2-Sp_2-Q_2-$ (式中、 P_2 、 Sp_2 、 Q_2 はそれぞれ独立して P_1 、 Sp_1 、 Q_1 と同じ意味を表す。) を表す。) で表される重合性化合物であるのが好ましい。

より好ましくは、一般式 (P C 1) において MG が以下の構造

【 0 0 4 9 】

【 化 1 6 】



【 0 0 5 0 】

(式中、 $C_1 \sim C_3$ はそれぞれ独立して 1, 4 - フェニレン基、1, 4 - シクロヘキシレン基、1, 4 - シクロヘキセニル基、テトラヒドロピラン - 2, 5 - ジイル基、1, 3 - ジオキサン - 2, 5 - ジイル基、テトラヒドロチオピラン - 2, 5 - ジイル基、1, 4 - ビシクロ (2, 2, 2) オクチレン基、デカヒドロナフタレン - 2, 6 - ジイル基、ピリジン - 2, 5 - ジイル基、ピリミジン - 2, 5 - ジイル基、ピラジン - 2, 5 - ジイル基、1, 2, 3, 4 - テトラヒドロナフタレン - 2, 6 - ジイル基、2, 6 - ナフチレン基、フェナントレン - 2, 7 - ジイル基、9, 10 - ジヒドロフェナントレン - 2, 7 - ジイル基、1, 2, 3, 4, 4a, 9, 10a - オクタヒドロフェナントレン 2, 7 - ジイル基又はフルオレン 2, 7 - ジイル基を表し、該 1, 4 - フェニレン基、1, 2, 3, 4 - テトラヒドロナフタレン - 2, 6 - ジイル基、2, 6 - ナフチレン基、フェナントレン - 2, 7 - ジイル基、9, 10 - ジヒドロフェナントレン - 2, 7 - ジイル基、1, 2, 3, 4, 4a, 9, 10a - オクタヒドロフェナントレン 2, 7 - ジイル基及びフルオレン 2, 7 - ジイル基は置換基として 1 個以上の F、Cl、 CF_3 、 OCF_3 、シアノ基、炭素原子数 1 ~ 8 のアルキル基、アルコキシ基、アルカノイル基、アルカノイルオキシ基、炭素原子数 2 ~ 8 のアルケニル基、アルケニルオキシ基、アルケノイル基又はアルケノイルオキシ基を有していても良く、 Y_1 及び Y_2 はそれぞれ独立して $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH_2CH_2-$ 、 $-OCH_2-$ 、 $-CH_2O-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-CH=CHCOO-$ 、 $-OCOCH=CH-$ 、 $-CH_2CH_2COO-$ 、 $-CH_2CH_2OCO-$ 、 $-COOCH_2CH_2-$ 、 $-OCOCH_2CH_2-$ 、 $-CONH-$ 、 $-NHCO-$ 又は単結合を表し、 n_5 は 0、1 又は 2 を表す。) で表されるのが好ましく、 Sp_1 及び Sp_2 がそれぞれ独立してアルキレン基を表し、該アルキレン基は 1 つ以上のハロゲン原子又はシアノ基により置換されていても良く、この基中に存在する 1 つ又は 2 つ以上の CH_2 基

10

20

30

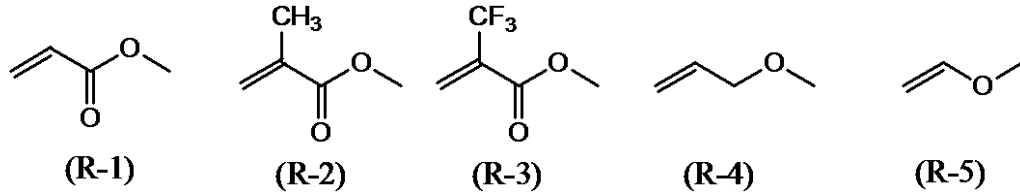
40

50

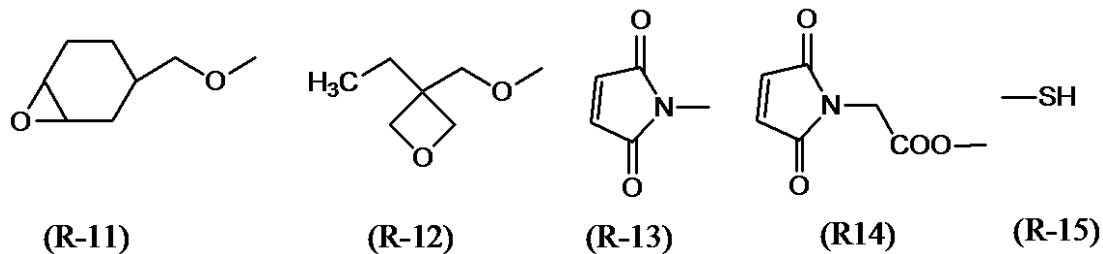
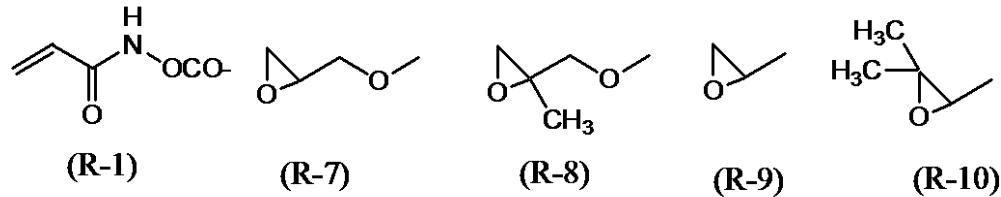
は酸素原子が直接隣接しないように - O - 、 - S - 、 - NH - 、 - N (CH₃) - 、 - C O - 、 - C O O - 、 - O C O - 、 - O C O O - 、 - S C O - 、 - C O S - 又は - C ≡ C - により置き換えられていても良く、 P₁ 及び P₂ がそれぞれ独立して以下の式 (R - 1) ~ 式 (R - 15)

【 0 0 5 1 】

【 化 1 7 】



10



20

【 0 0 5 2 】

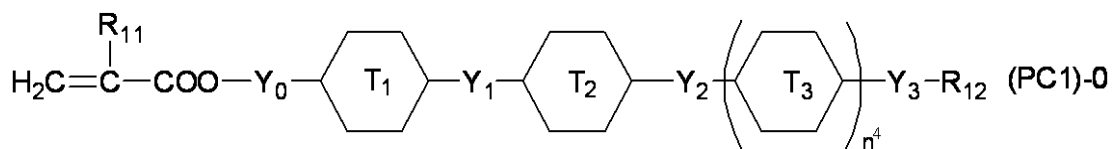
で表される構造であるのが好ましい。これらの重合基はラジカル重合、ラジカル付加重合、カチオン重合、及びアニオン重合により硬化する。特に重合方法として紫外線重合を行う場合には、式 (R - 1) 、式 (R - 2) 、式 (R - 4) 、式 (R - 5) 、式 (R - 7) 、式 (R - 11) 、式 (R - 13) 又は式 (R - 15) が好ましく、式 (R - 1) 、式 (R - 2) 、式 (R - 7) 、式 (R - 11) 又は式 (R - 13) がより好ましく、式 (R - 1) 、式 (R - 2) がより好ましい。

30

重合性官能基を分子内に 1 個有する重合性化合物としては、一般式 (PC1) - 0 が挙げられる。

【 0 0 5 3 】

【 化 1 8 】



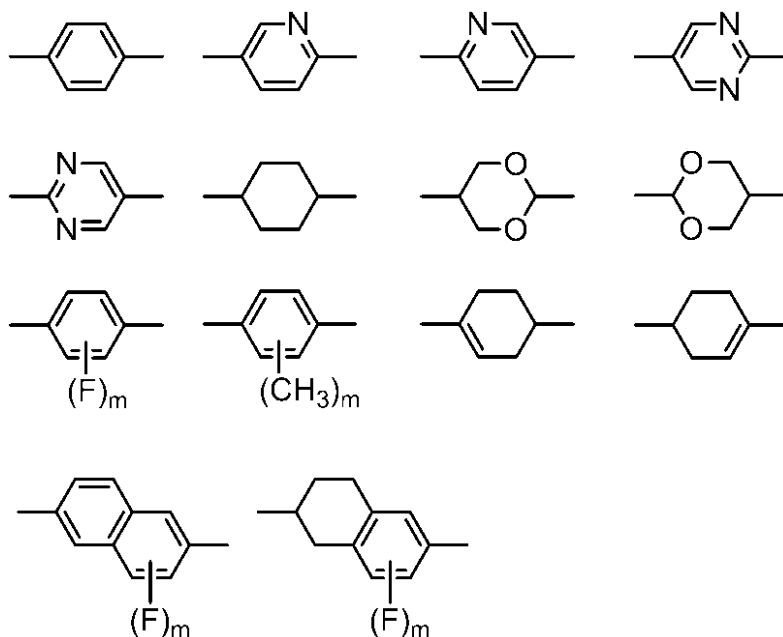
40

【 0 0 5 4 】

(式 (PC1) - 0 中、 R₁₁ は水素原子又はメチル基を表し、 6 員環 T₁ 、 T₂ 及び T₃ はそれぞれ独立的に、

【 0 0 5 5 】

【化 19】



10

【0056】

のいずれか（ただし m は 1 から 4 の整数を表す。）を表し、

20

n_4 は 0 又は 1 の整数を表し、

Y_0 、 Y_1 及び Y_2 はそれぞれ独立して単結合、 $-O-$ 、 $-OCH_2-$ 、 $-OCH_2-$ 、 $-C_2H_4-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-CO-$ 、 $-OCOO-$ 、 $-NH-$ 、 $-NHCOO-$ 、 $-OCONH-$ 、 $-OCOCH_2-$ 、 $-CH_2OCO-$ 、 $-COOCH_2-$ 、 $-CH_2COO-$ 、 $-CH=CH-COO-$ 、 $-OCO-CH=CH-$ 、 $-CH=CH-OCO-$ 、 $-COO-CH=CH-$ 、 $-CH=CCH_3-COO-$ 、 $-COO-CCH_3=CH-$ 、 $-COOC_2H_4-$ 、 $-OCOC_2H_4-$ 、 $-C_2H_4OCO-$ 、 $-C_2H_4COO-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-CF_2O-$ 及び $-OCF_2-$ を表し、

Y_3 は単結合、 $-O-$ 、 $-COO-$ 、又は $-OCO-$ を表し、

R_{12} は水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、炭素原子数 1 から 20 のアルキル基、炭素原子数 1 から 20 のアルケニル基、炭素原子数 1 から 20 のアルコキシ基、又は炭素原子数 1 から 20 の炭化水素基を表す。）からなる群より選ばれる少なくとも 1 種の重合性化合物が好ましい。

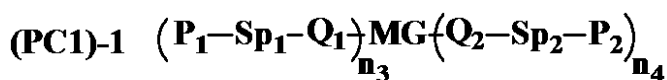
30

【0057】

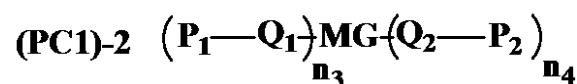
重合性官能基を分子内に 2 個以上有する重合性化合物としては、一般式 (PC1) - 1 又は一般式 (PC1) - 2

【0058】

【化 20】



40



【0059】

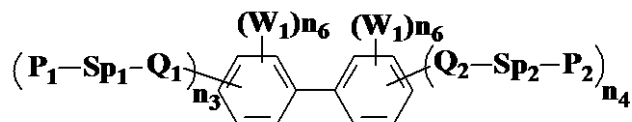
(P_1 、 Sp_1 、 Q_1 、 P_2 、 Sp_2 、 Q_2 及び MG は一般式 (PC1) と同じ意味を表し、 n_3 及び n_4 はそれぞれ独立して 1、2 又は 3 を表す。) が挙げられる。

具体的には、一般式 (PC1) が一般式 (PC1) - 3 から一般式 (PC1) - 11

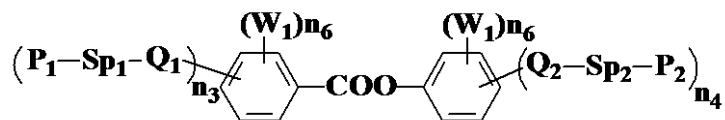
【0060】

【化 2 1】

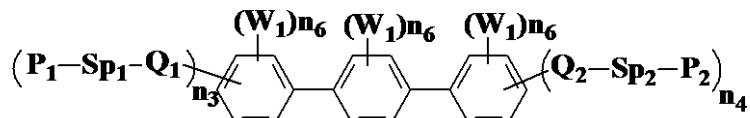
(PC1)-3



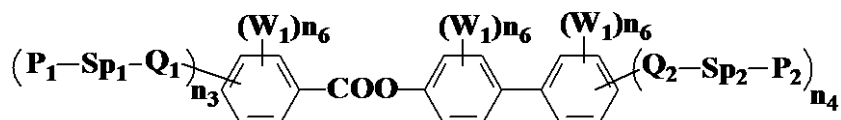
(PC1)-4



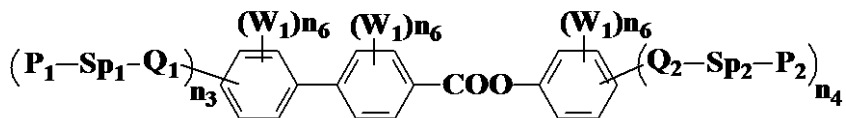
(PC1)-5



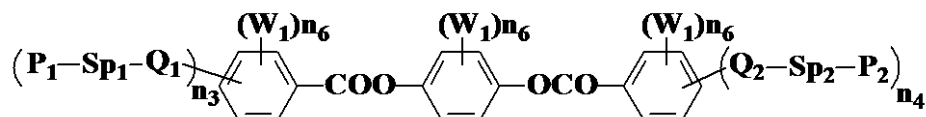
(PC1)-6



(PC1)-7



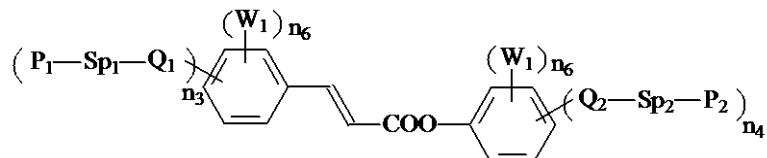
(PC1)-8



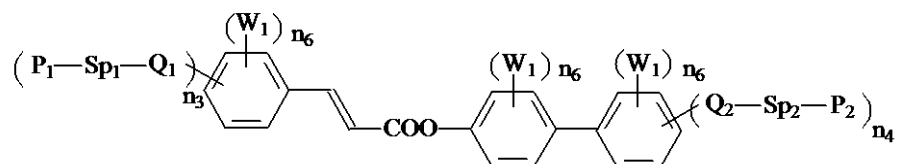
【 0 0 6 1】

【化 2 2】

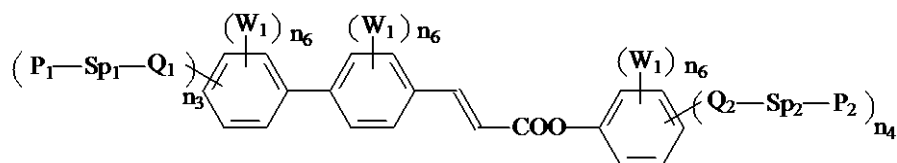
(PC1)-9



(PC1)-10



(PC1)-11



【 0 0 6 2】

(式中、P₁、P₂、S p₁、S p₂、Q₁及びQ₂は一般式(PC1)と同じ意味を表し、W₁はそれぞれ独立してF、CF₃、OCF₃、CH₃、OCH₃、炭素原子数2～5のアルキル基、アルコキシ基、アルケニル基、COOW₂、OCOW₂又はOCOOW₂を表し(式中、W₂はそれぞれ独立して炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖アルキル基又は炭素原子数2～5のアルケニル基を表す。)、n₃はそれぞれ独立して1、2又は3を表し、n₄はそれぞれ独立して1、2又は3を表し、n₆はそれぞれ独立して0、1、2、3又は4を表し、同一環上におけるn₃+n₆及びn₄+n₆は5以下である。)で表される化合物からなる群より選ばれる1種又は2種以上の重合性化合物であるのが好

10

20

30

40

50

ましい。

【 0 0 6 3 】

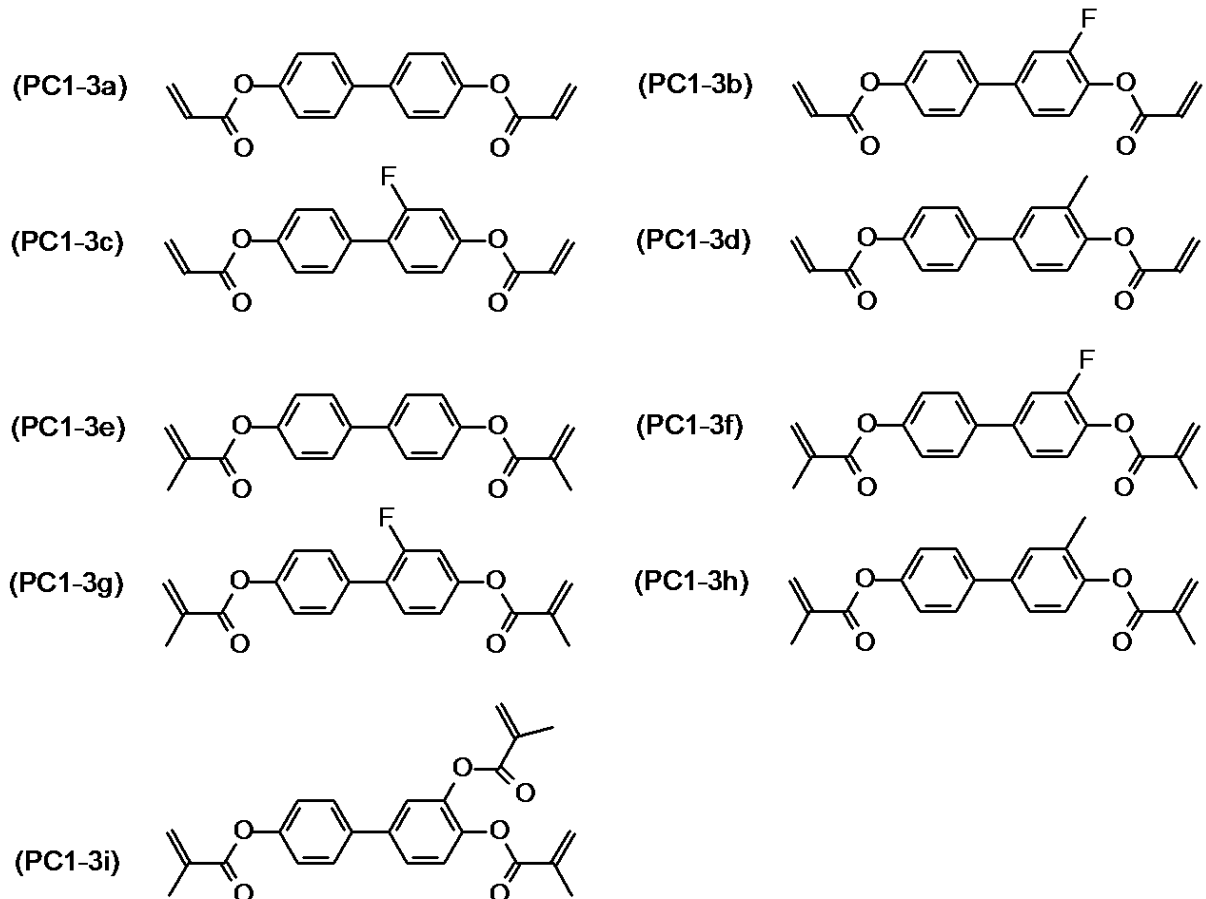
一般式 (P C 1) 及び一般式 (P C 1) - 1 から一般式 (P C 1) - 1 1 において $S p_1$ 、 $S p_2$ 、 Q_1 、及び Q_2 は単結合であるのが好ましい。 $n_3 + n_4$ は 1 ~ 3 が好ましく、1 又は 2 が好ましい。 P_1 及び P_2 は式 (R - 1) 又は (R - 2) であるのが好ましい。 W_1 は F、 $C F_3$ 、 $O C F_3$ 、 $C H_3$ 又は $O C H_3$ であるのが好ましい。 n_6 は 1、2、3 又は 4 である。

具体的には次に記載する化合物が好ましい。

【 0 0 6 4 】

【 化 2 3 】

10



20

30

【 0 0 6 5 】

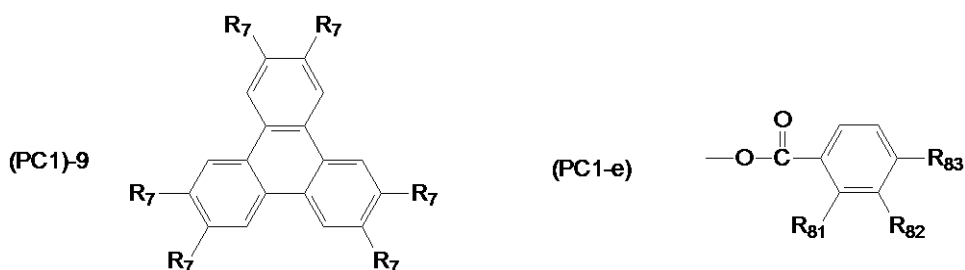
また、さらに上記 (P C 1 - 3 a) ~ (P C 1 - 3 i) のベンゼン環の水素原子がフッ素原子に置換されていてもよい。

また、重合性化合物は下記一般式 (P C 1) - 9 で表される円盤状液晶化合物

【 0 0 6 6 】

【 化 2 4 】

40



【 0 0 6 7 】

(式中、 R_7 はそれぞれ独立して P_1 - $S p_1$ - Q_1 又は一般式 (P C 1 - e) の置換基

50

を表し（式中、 P_1 、 Sp_1 及び Q_1 は般式（ $PC1$ ）と同じ意味を表し、 R_{81} 及び R_{82} はそれぞれ独立して水素原子、ハロゲン原子又はメチル基を表し、 R_{83} は炭素原子数 1 ~ 20 アルコキシ基を表し、該アルコキシ基中の少なくとも 1 つの水素原子は前記式（ $R-1$ ）~（ $R-15$ ）で表される置換基で置換されている。）であることも好ましい。

【0068】

重合性化合物の使用量は、好ましくは 0.05 ~ 2.0 質量%である。

前記液晶組成物は前記用途に単独で使用することもでき、さらに酸化防止剤を 1 種又は 2 種以上含有することもでき、さらに UV 吸収剤を 1 種又は 2 種以上含有することもできる。

10

【0069】

（カラーフィルタ）

本発明におけるカラーフィルタは、ブラックマトリックス及び少なくとも RGB 三色画素部から構成されるが、RGB 三色画素部は、色材として、水溶分が 0.001 質量%以上、1.5 質量%以下及び / 又は比電導度が $10 \mu S / cm$ 以上、 $150 \mu S / cm$ 以下の顔料を含有するものである。

【0070】

このうち、水溶分は 0 質量%以上 1.2 質量%以下が好ましく、0 質量%以上 1.0 質量%以下がより好ましく、0 質量%以上 0.8 質量%以下が特に好ましい。

また、比電導度は $10 \mu S / cm$ 以上 $120 \mu S / cm$ 以下が好ましく、 $10 \mu S / cm$ 以上 $100 \mu S / cm$ 以下がより好ましく、10 以上 $80 \mu S / cm$ 以下が特に好ましい。

20

【0071】

さらに具体的には、水溶分が 0 質量%以上 1.2 質量%以下且つ比電導度が $10 \mu S / cm$ 以上 $120 \mu S / cm$ 以下が好ましく、

水溶分が 0 質量%以上 1.0 質量%以下且つ比電導度が $10 \mu S / cm$ 以上 $100 \mu S / cm$ 以下がより好ましく、

水溶分が 0 質量%以上 0.8 質量%以下且つ比電導度が $10 \mu S / cm$ 以上 $80 \mu S / cm$ 以下が特に好ましい。

【0072】

30

ここで、顔料の水溶分とは、顔料に対する顔料中における水に溶出する成分の割合をいい、具体的には、JIS K 5101 - 16 - 1（顔料試験方法 - 第 16 部：水溶分 - 第 1 節：煮沸抽出法）に基づいて算出されるものである。

即ち、

1. 顔料 5.00 g を 500 mL の硬質ビーカーに正しく計り取り、イオン交換水（電導度 $5 \mu S / cm$ 以下、 $pH = 7.0 \pm 1.0$ ）200 mL を、初め少量ずつ加え、試薬一級メタノール 5 mL を加えてよく濡らした後、全量を加え 5 分間煮沸する。

2. これを室温まで冷却し、250 mL メスシリンダーに移し、更に上記イオン交換水を加えて 250 mL とし、よくかき混ぜてアドバンテック社製ろ紙 No. 5C にてろ過する。

40

3. ろ液の最初の約 50 mL を捨て、残りの中から 100 mL をメスシリンダーで計り取り、質量既知の蒸発皿に移す。メスシリンダーに付着したる液は少量のイオン交換水で蒸発皿に洗い流す。

4. この蒸発皿を水浴上で蒸発乾固させ、105 ~ 110 に保った乾燥器中で 2 時間乾燥した後デシケーターに入れ、放冷した後の質量を計り、蒸発残量を求める。

5. 次式により水溶分を算出する。

$$\text{顔料の水溶分}(\%) = \frac{\text{蒸発残量}(\text{g}) \times 2.5}{\text{顔料の質量}(\text{g})} \times 100$$

また、顔料の比電導度とは、顔料をイオン交換水で煮沸抽出した水溶液をろ過して得られたる液の比電導度と用いたイオン交換水の比電導度の差をいい、具体的には、上記の JIS K 5101 - 16 - 1（顔料試験方法 - 第 16 部：水溶分 - 第 1 節：煮沸抽出法）

50

において、得られたる液の比電導度と用いたイオン交換水の比電導度の差で得られる。

顔料の比電導度 = る液の比電導度 - 用いたイオン交換水の比電導度

前記 R G B 三色画素部は、色材として、R 画素部中にジケトピロロピロール系赤色顔料を、G 画素部中にハロゲン化金属フタロシアニン顔料を、B 画素部中に ε 型フタロシニアン顔料及び / 又はトリアリールメタン顔料を含有するのが好ましい。

【0073】

前記 R 画素部中に含有するジケトピロロピロール系赤色顔料としては C . I . P i g m e n t R e d 2 5 4、同 2 5 5、同 2 6 4、同 2 7 2、O r a n g e 7 1 及び同 7 3 から選ばれる 1 種又は 2 種以上が好ましく、R e d 2 5 4、同 2 5 5、同 2 6 4 及び同 2 7 2 から選ばれる 1 種又は 2 種以上がより好ましく、C . I . P i g m e n t R e d 2 5 4 が特に好ましい。

10

【0074】

前記 G 画素部中に含有するハロゲン化金属フタロシアニン顔料としては、A l、S i、S c、T i、V、M g、F e、C o、N i、Z n、C u、G a、G e、Y、Z r、N b、I n、S n 及び P b からなる群から選ばれる金属を中心金属として有するハロゲン化金属フタロシアニン顔料であり、その中心金属が三価の場合には、その中心金属には 1 つのハロゲン原子、水酸基又はスルホン酸基のいずれかが結合しているか、又はオキソ又はチオ架橋しており、その中心金属が四価金属の場合には、その中心金属には 1 つの酸素原子又は同一でも異なっても良い 2 つのハロゲン原子、水酸基又はスルホン酸基のいずれかが結合しているハロゲン化金属フタロシアニン顔料が好ましい。該ハロゲン化金属フタロシ

20

【0075】

(第一群)

A l、S i、S c、T i、V、M g、F e、C o、N i、Z n、C u、G a、G e、Y、Z r、N b、I n、S n 及び P b からなる群から選ばれる金属を中心金属として有し、フタロシアニン分子 1 個当たり 8 ~ 1 6 個のハロゲン原子がフタロシアニン分子のベンゼン環に結合したハロゲン化金属フタロシアニン顔料であり、その中心金属が三価の場合には、その中心金属には 1 つのハロゲン原子、水酸基又はスルホン酸基 (- S O ₃ H) のいずれかが結合しており、中心金属が四価金属の場合には、その中心金属には 1 つの酸素原子又は同一でも異なっても良い 2 つのハロゲン原子、水酸基又はスルホン酸基のいずれかが結合しているハロゲン化金属フタロシアニン顔料。

30

【0076】

(第二群)

A l、S c、G a、Y 及び I n からなる群から選ばれる三価金属を中心金属とし、フタロシアニン分子 1 個当たり 8 ~ 1 6 個のハロゲン原子がフタロシアニン分子のベンゼン環に結合したハロゲン化金属フタロシアニンの 2 分子を構成単位とし、これら構成単位の各中心金属が酸素原子、硫黄原子、スルフィニル (- S O -) 及びスルホニル (- S O ₂ -) からなる群から選ばれる二価原子団を介して結合したハロゲン化金属フタロシアニン二量体からなる顔料。

40

【0077】

該ハロゲン化金属フタロシアニン顔料において、ベンゼン環に結合するハロゲン原子は、全て同一であっても、それぞれ異なってもよい。また、ひとつのベンゼン環に異なるハロゲン原子が結合していてもよい。

ここで、フタロシアニン分子 1 個当たり 8 ~ 1 6 個のハロゲン原子のうち 9 ~ 1 5 個の臭素原子がフタロシアニン分子のベンゼン環に結合したハロゲン化金属フタロシアニン顔料は、黄味を帯びた明るい緑色を呈し、カラーフィルタの緑色画素部への使用に最適である。該ハロゲン化金属フタロシアニン顔料は、水や有機溶媒に不溶または難溶である。該ハロゲン化金属フタロシアニン顔料には、後述する仕上げ処理が行われていない顔料 (粗顔料とも呼ばれる) も、仕上げ処理が行われた顔料も、いずれも包含される。

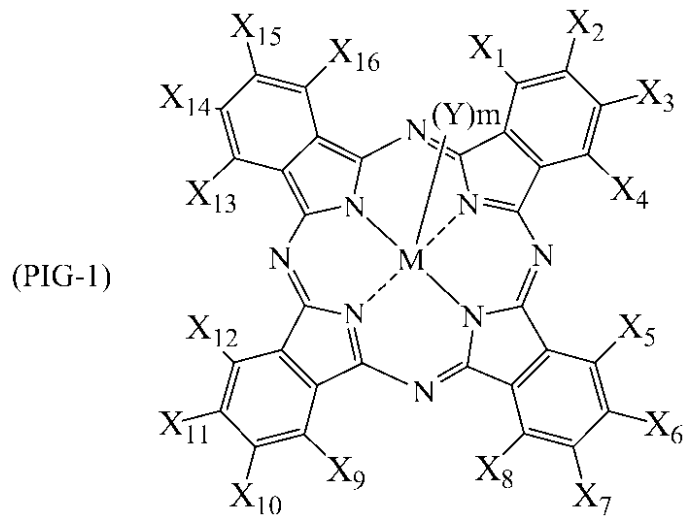
50

【 0 0 7 8 】

前記第一群および第二群に属するハロゲン化金属フタロシアニン顔料は、下記一般式 (P I G - 1) で表すことが出来る。

【 0 0 7 9 】

【 化 2 5 】



10

【 0 0 8 0 】

第一群に属するハロゲン化金属フタロシアニン顔料は、前記一般式 (P I G - 1) において、次の通りである。

一般式 (P I G - 1) において、 $X_1 \sim X_{16}$ は、水素原子、塩素原子、臭素原子またはヨウ素原子を表す。ひとつのベンゼン環に結合した4個のXの原子は同一でも異なっても良い。4個のベンゼン環に結合した $X_1 \sim X_{16}$ のうち、8～16個は塩素原子、臭素原子またはヨウ素原子である。Mは中心金属を表す。後述するY及びその個数mが同一であるハロゲン化金属フタロシアニン顔料の範囲において、16個の $X_1 \sim X_{16}$ のうち塩素原子、臭素原子及びヨウ素原子の合計が8未満の顔料は青色であり、同様に16個の $X_1 \sim X_{16}$ のうち塩素原子、臭素原子及びヨウ素原子の合計が8以上の顔料で前記合計値が大きいくほど黄味が強くなる。中心金属Mに結合するYはフッ素、塩素、臭素またはヨウ素のいずれかのハロゲン原子、酸素原子、水酸基及びスルホン酸基からなる群から選ばれる一価原子団であり、mは中心金属Mに結合するYの数を表し、0～2の整数である。

20

30

【 0 0 8 1 】

中心金属Mの原子価により、mの値が決定される。中心金属Mが、Al、Sc、Ga、Y、Inの様に原子価が3価の場合、 $m = 1$ であり、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素、水酸基及びスルホン酸基からなる群から選ばれる基の一つが中心金属に結合する。中心金属Mが、Si、Ti、V、Ge、Zr、Snの様に原子価が4価の場合は、 $m = 2$ であり、酸素の一つが中心金属に結合するか、またはフッ素、塩素、臭素、ヨウ素、水酸基及びスルホン酸基からなる群から選ばれる基の二つが中心金属に結合する。中心金属Mが、Mg、Fe、Co、Ni、Zn、Cu、Zr、Sn、Pbの様に原子価が2価の場合は、Yは存在しない。

40

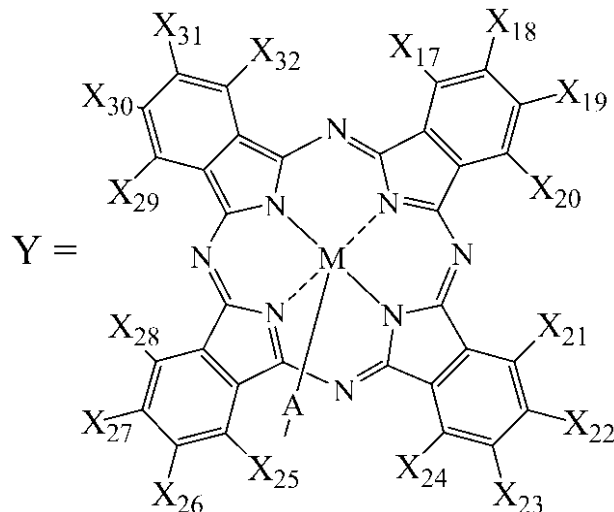
【 0 0 8 2 】

また、第二群に属するハロゲン化金属フタロシアニン顔料は、前記一般式 (P I G - 1) において次の通りである。

前記一般式 (P I G - 1) において、 $X_1 \sim X_{16}$ については、前記定義と同義であり、中心金属MはAl、Sc、Ga、Y及びInからなる群から選ばれる三価金属を表し、mは1を表す。Yは次の原子団を表す。

【 0 0 8 3 】

【化 2 6】



10

【 0 0 8 4】

なお、原子団 Y の化学構造中、中心金属 M は前記した定義と同義であり、 $X_{17} \sim X_{32}$ については、一般式 (PIG - 1) において前記した $X_1 \sim X_{16}$ の定義と同義である。A は、酸素原子、硫黄原子、スルフィニル (- S O -) 及びスルホニル (- S O₂ -) からなる群から選ばれる二価原子団を表す。一般式 (PIG - 1) 中の M と原子団 Y の M とは、二価原子団 A を介して結合していることを表す。

20

即ち、第二群に属するハロゲン化金属フタロシアニン顔料は、ハロゲン化金属フタロシアニンの 2 分子を構成単位とし、これらが前記二価原子団を介して結合したハロゲン化金属フタロシアニン二量体である。

【 0 0 8 5】

一般式 (PIG - 1) で表わされるハロゲン化金属フタロシアニン顔料としては、具体的には、次の (1) ~ (4) が挙げられる。

(1) ハロゲン化銅フタロシアニン顔料、ハロゲン化錫フタロシアニン顔料、ハロゲン化ニッケルフタロシアニン顔料、ハロゲン化亜鉛フタロシアニン顔料の様な、Mg、Fe、Co、Ni、Zn、Cu、Zr、Sn 及び Pb からなる群から選ばれる二価金属を中心金属として有し、かつフタロシアニン分子 1 個当たり 4 個のベンゼン環に 8 ~ 16 個のハロゲン原子が結合したハロゲン化金属フタロシアニン顔料。なお、この中で、塩素化臭素化亜鉛フタロシアニン顔料は、C . I . Pigment Green 58 であり、特に好ましい。

30

(2) ハロゲン化クロロアルミニウムフタロシアニンの様な、Al、Sc、Ga、Y 及び In からなる群から選ばれる三価金属を中心金属として有し、中心金属には 1 つのハロゲン原子、水酸基又はスルホン酸基のいずれかを有し、かつフタロシアニン分子 1 個当たり 4 個のベンゼン環に 8 ~ 16 個のハロゲン原子が結合したハロゲン化金属フタロシアニン顔料。

(3) ハロゲン化オキシチタニウムフタロシアニン、ハロゲン化オキシバナジウムフタロシアニンの様な、Si、Ti、V、Ge、Zr 及び Sn からなる群から選ばれる四価金属を中心金属として有し、中心金属には 1 つの酸素原子又は同一でも異なっても良い 2 つのハロゲン原子、水酸基又はスルホン酸基のいずれかを有し、かつフタロシアニン分子 1 個当たり 4 個のベンゼン環に 8 ~ 16 個のハロゲン原子が結合したハロゲン化金属フタロシアニン顔料。

40

(4) ハロゲン化された μ - オキソ - アルミニウムフタロシアニン二量体、ハロゲン化された μ - チオ - アルミニウムフタロシアニン二量体の様な、Al、Sc、Ga、Y 及び In からなる群から選ばれる三価金属を中心金属とし、フタロシアニン分子 1 個当たり 4 個のベンゼン環に 8 ~ 16 個のハロゲン原子が結合したハロゲン化金属フタロシアニンの 2 分子を構成単位とし、これら構成単位の各中心金属が酸素原子、硫黄原子、スルフィニ

50

ル及びスルホニルからなる群から選ばれる二価原子団を介して結合したハロゲン化金属フタロシアニオン二量体からなる顔料。

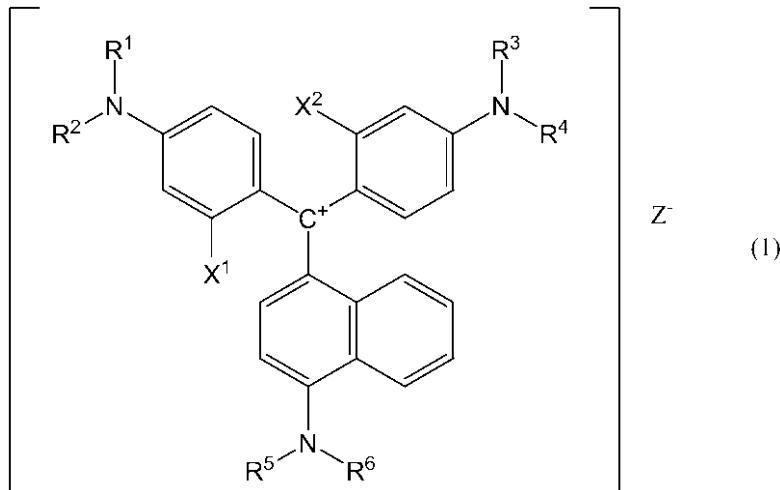
G画素部中のハロゲン化金属フタロシアニオン顔料としては、具体的にはC . I . Pigment Green 7、同36及び同58から選ばれる1種又は2種以上が好ましく、Green 36及び同58から選ばれる1種又は2種がより好ましい。

【0086】

前記B画素部中に含有するε型フタロシニアン顔料としては、C . I . Pigment Blue 15 : 6、トリアリールメタン顔料としては、C . I . Pigment Blue 1及び/又は下記一般式(1)

【0087】

【化27】



【0088】

(式中、 $R^1 \sim R^6$ は各々独立して水素原子、置換基を有していてもよい炭素数1~8のアルキル基、又は置換基を有してもよいアリール基を表す。 $R^1 \sim R^6$ が置換基を有していてもよいアルキル基を表す場合、隣接する R^1 と R^2 、 R^3 と R^4 、 R^5 と R^6 が結合して環構造を形成してもよい。 X^1 及び X^2 は各々独立して水素原子、ハロゲン原子、又は置換基を有してもよい炭素数1~8のアルキル基を示す。 Z^- は $(P_2Mo_yW_{18-y}O_{62})^{6-}/6$ で表され、 $y = 0, 1, 2$ または3の整数であるヘテロポリオキシメタレートアニオンか、 $(SiMoW_{11}O_{40})^{4-}/4$ であるヘテロポリオキシメタレートアニオンか、欠損ドーソン型リンタングステン酸ヘテロポリオキシメタレートアニオンから選ばれる少なくとも一種のアニオンである。1分子中に複数の式(1)が含まれる場合、それらは同じ構造であっても異なる構造であってもよい。)で表されるトリアリールメタン顔料が好ましい。

【0089】

一般式(1)において、 $R^1 \sim R^6$ は同一でも異なるものであってもよい。従って、-NRR(RRは、 R^1R^2 、 R^3R^4 、及び R^5R^6 のいずれかの組み合わせを表す。)基は対称であっても非対称であってもよい。

隣接するR(Rは $R^1 \sim R^6$ のいずれかを表す。)が結合して環を形成する場合、これらはヘテロ原子で架橋された環であってもよい。この環の具体例として、例えば以下のものが挙げられる。これらの環は置換基を有していてもよい。

【0090】

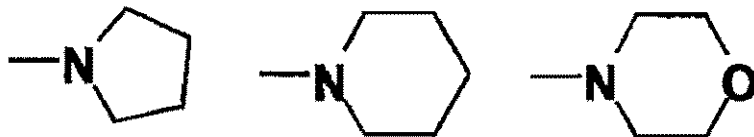
10

20

30

40

【化 28】



【0091】

又、 $R^1 \sim R^6$ は、化学的安定性の点から、各々独立して、水素原子、置換基を有していてもよいアルキル基、又は置換基を有していてもよいアリール基であることが好ましい。

10

中でも、 $R^1 \sim R^6$ は、各々独立して水素原子；メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、シクロプロピル基、ブチル基、イソブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基、ペンチル基、シクロペンチル基、ヘキシル基、シクロヘキシル基、ヘプチル基、オクチル基、2-エチルヘキシル基等のアルキル基；フェニル基、ナフチル基等のアリール基のいずれかであることがより好ましい。

$R^1 \sim R^6$ は、アルキル基又はアリール基を示す場合、該アルキル基又はアリール基は更に任意の置換基を有していてもよい。そのアルキル基又はアリール基が更に有していてもよい任意の置換基としては、例えば、下記〔置換基群 Y〕が挙げられる。

【0092】

20

〔置換基群 Y〕

メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、シクロプロピル基、ブチル基、イソブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基、ペンチル基、シクロペンチル基、ヘキシル基、シクロヘキシル基、ヘプチル基、オクチル基、2-エチルヘキシル基等のアルキル基；フェニル基、ナフチル基等のアリール基；フッ素原子、塩素原子等のハロゲン原子；シアノ基；水酸基；メトキシ基、エトキシ基、プロポキシ基、ブトキシ基など炭素原子数 1～8 のアルコキシ基；アミノ基、ジエチルアミノ基、ジブチルアミノ基、アセチルアミノ基など置換基を有していてもよいアミノ基；アセチル基、ベンゾイル基等のアシル基；アセチルオキシ基、ベンゾイルオキシ基等のアシルオキシ基；等が挙げられる。

【0093】

30

$R^1 \sim R^6$ としては、置換基を有していてもよい炭素原子数 1～8 のアルキル基が更に好ましく、より具体的には、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、ブチル基、イソブチル基、*sec*-ブチル基、ペンチル基、ヘキシル基、2-エチルヘキシル基など無置換のアルキル基；2-メトキシエチル基、2-エトキシエチル基等のアルコキシアルキル基；2-アセチルオキシエチル基等のアシルオキシ基；2-シアノエチル基等のシアノアルキル基；2, 2, 2-トリフルオロエチル基、4, 4, 4-トリフルオロブチル基等のフルオロアルキル基、などが挙げられる。

【0094】

X^1 及び X^2 は、上記アルキル基である場合、更に任意の置換基を有していてもよい。これらの置換基として、例えばフッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子等のハロゲン原子；メトキシ基、エトキシ基、プロポキシ基等のアルコキシ基、などが挙げられる。 X^1 及び X^2 として、具体的には、フルオロメチル基、トリフルオロメチル基、トリクロロメチル基、2, 2, 2-トリフルオロエチル基等のハロアルキル基；メトキシメチル基等のアルコキシアルキル基、などが挙げられる。

40

【0095】

X^1 及び X^2 としては、水素原子、メチル基、塩素原子又はトリフルオロメチル基などねじれに影響を与えない程度の適度な立体障害を有する置換基であることが好ましい。 X^1 及び X^2 は、色調および耐熱性の点から水素原子、メチル基又は塩素原子であることが最も好ましい。

【0096】

50

Z⁻は、 $(P_2Mo_yW_{18-y}O_{62})^{6-}/6$ で表され、 $y = 0、1、2$ または3の整数であるヘテロポリオキシメタレートアニオンか、 $(SiMoW_{11}O_{40})^{4-}/4$ で表されるヘテロポリオキシメタレートアニオンか、欠損ドーソン型リンタングステン酸ヘテロポリオキシメタレートアニオンから選ばれる少なくとも一種のアニオンのトリアリールメタン化合物である。欠損ドーソン型リンタングステン酸として具体的には、耐久性の観点から1欠損ドーソン型リンタングステン酸ヘテロポリオキシメタレートアニオン $(P_2W_{17}O_{61})^{10-}/10$ が好ましい。

【0097】

前記一般式(1)で表されるトリアリールメタン顔料の具体例としては、例えば、以下の表1～7に記載した化合物があげられるが、本発明はその主旨を超えない限り、これら

10

【0098】

【表1】

No	R1	R2	R3	R4	R5	R6	X1	X2	Z ⁻
1	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	H	H	(P2W18O62)6-
2	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	H	H	(P2MoW17O62)6-
3	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	H	H	(P2Mo2W16O62)6-
4	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	H	H	(P2Mo3W15O62)6-
5	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	H	H	(SiMoW11O40)4-
6	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	H	H	(P2W17O61)10-
7	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	C2H5-	H	H	H	(P2W18O62)6-
8	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	C2H5-	H	H	H	(P2MoW17O62)6-
9	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	C2H5-	H	H	H	(P2Mo3W15O62)6-

20

30

40

【0099】

【表 2】

N _o	R1	R2	R3	R4	R5	R6	X1	X2	Z ⁻
10	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	C2H5-	H	H	H	(P2Mo3W 15O62)6
11	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	C2H5-	H	H	H	(SiMoW1 1O4O)4 ⁻
12	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	C2H5-	H	H	H	(P2W17O 61)10 ⁻
13	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	Ph-	H	H	H	(P2W18O 62)6 ⁻
14	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	Ph-	H	H	H	(P2MoW1 7O62)6 ⁻
15	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	Ph-	H	H	H	(P2Mo2W 16O62)6 ⁻
16	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	Ph-	H	H	H	(P2Mo3W 15O62)6 ⁻
17	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	Ph-	H	H	H	(SiMoW1 1O4O)4 ⁻
18	CH3-	CH3-	CH3-	CH3-	Ph-	H	H	H	(P2W17O 61)10 ⁻

【 0 1 0 0 】

10

20

30

【表 3】

N ^o	R1	R2	R3	R4	R5	R6	X1	X2	Z ⁻
19	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	Ph ⁻	Me	H	H	(P2W18O ₆₂)6 ⁻
20	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	Ph ⁻	Me	H	H	(P2MoW17O62)6 ⁻
21	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	Ph ⁻	Me	H	H	(P2Mo2W16O62)6 ⁻
22	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	Ph ⁻	Me	H	H	(P2Mo3W15O62)6 ⁻
23	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	Ph ⁻	Me	H	H	(SiMoW11O40)4 ⁻
24	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	CH3 ⁻	Ph ⁻	Me	H	H	(P2W17O61)10 ⁻
25	n-C3H7 ⁻	n-C3H7 ⁻	n-C3H7 ⁻	n-C3H7 ⁻	C2H5 ⁻	H	H	H	(P2W18O62)6 ⁻
26	n-C3H7 ⁻	n-C3H7 ⁻	n-C3H7 ⁻	n-C3H7 ⁻	C2H5 ⁻	H	H	H	(P2MoW17O62)6 ⁻
27	n-C3H7 ⁻	n-C3H7 ⁻	n-C3H7 ⁻	n-C3H7 ⁻	C2H5 ⁻	H	H	H	(P2Mo2W16O62)6 ⁻

【 0 1 0 1 】

10

20

30

【表 4】

N ^o	R1	R2	R3	R4	R5	R6	X1	X2	Z ⁻
28	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	H	(P2W18O ₆₂)6 ⁻
29	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	H	(P2MoW17O62)6 ⁻
30	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	H	(P2Mo2W16O62)6 ⁻
31	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	H	(P2Mo3W15O62)6 ⁻
32	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	H	(SiMoW11O40)4 ⁻
33	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	H	(P2W17O61)10 ⁻
34	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	CH3 ⁻	(P2W18O62)6 ⁻
35	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	CH3 ⁻	(P2MoW17O62)6 ⁻
36	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	CH3 ⁻	(P2Mo3W15O62)6 ⁻

【 0 1 0 2 】

10

20

30

【表 5】

N ^o	R1	R2	R3	R4	R5	R6	X1	X2	Z ⁻
37	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	CH3 ⁻	(P2Mo3W15O62)6 ⁻
38	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	CH3 ⁻	(SiMoW11O40)4 ⁻
39	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	CH3 ⁻	CH3 ⁻	(P2W17O61)10 ⁻
40	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	Cl	H	(P2W18O62)6 ⁻
41	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	Cl	H	(P2MoW17O62)6 ⁻
42	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	Cl	H	(P2Mo2W16O62)6 ⁻
43	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	Cl	H	(P2Mo3W15O62)6 ⁻
44	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	Cl	H	(SiMoW11O40)4 ⁻
45	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	C2H5 ⁻	H	Cl	H	(P2W17O61)10 ⁻

【 0 1 0 3 】

10

20

30

【表 6】

No	R1	R2	R3	R4	R5	R6	X1	X2	Z・
46	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	H	H	(P2W18O62)6・
47	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	H	H	(P2MoW17O62)6・
48	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	H	H	(P2Mo2W16O62)6・
49	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	H	H	(P2Mo3W15O62)6・
50	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	H	H	(SiMoW11O40)4・
51	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	C2H5・	H	H	(P2W17O61)10・
52					C2H5・	H	H	H	(P2W18O62)6・
53					C2H5・	H	H	H	(P2MoW17O62)6・
54					C2H5・	H	H	H	(P2Mo2W16O62)6・

【 0 1 0 4 】

10

20

30

【表 7】

No.	R1	R2	R3	R4	R5	R6	X1	X2	Z-
55					C2H5-	H	H	H	(P2Mo3W15O62)6-
56					C2H5-	H	H	H	(SiMoW11O40)4-
57					C2H5-	H	H	H	(P2W17O61)10-
58	4,4,4-trifluorobutyl	4,4,4-trifluorobutyl	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	H	H	(P2W18O62)6-
59	4,4,4-trifluorobutyl	4,4,4-trifluorobutyl	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	H	H	(P2MoW17O62)6-
60	4,4,4-trifluorobutyl	4,4,4-trifluorobutyl	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	H	H	(SiMoW11O40)4-
61	4,4,4-trifluorobutyl	4,4,4-trifluorobutyl	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	CH3-	H	(P2W18O62)6-
62	4,4,4-trifluorobutyl	4,4,4-trifluorobutyl	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	CH3	H	(P2MoW17O62)6-
63	4,4,4-trifluorobutyl	4,4,4-trifluorobutyl	C2H5-	C2H5-	C2H5-	H	CH3	H	((SiMoW11O40)4-

10

20

30

【0105】

前記RGB三色画素部は、色材として、R画素部中に更に、C.I. Pigment Red 177、同242、同166、同167、同179、C.I. Pigment Orange 38、同71、C.I. Pigment Yellow 150、同215、同185、同138、同139からなる群から選ばれる少なくとも1種の有機顔料を含有するのが好ましい。

40

【0106】

前記RGB三色画素部は、色材として、G画素部中に更に、C.I. Pigment Yellow 150、同215、同185、同138からなる群から選ばれる少なくとも1種の有機顔料を含有するのが好ましい。

【0107】

前記RGB三色画素部は、色材として、B画素部中に更に、C.I. Pigment Blue 1、C.I. Pigment Violet 23からなる群から選ばれる少

50

なくとも１種の有染顔料を含有するのが好ましい。

【０１０８】

また、カラーフィルタが、ブラックマトリックスとＲＧＢ三色画素部とＹ画素部とから構成される場合、Ｙ画素部は、色材として、水溶分が１．５％以下及び／又は比電導度が $150\mu\text{S}/\text{cm}$ 以下の顔料を含有するのが好ましい。水溶分は１．０％以下がより好ましく、比電導度は $100\mu\text{S}/\text{cm}$ 以下がより好ましく、水溶分が１．０％以下且つ比電導度が $100\mu\text{S}/\text{cm}$ 以下であるのがより好ましい。

【０１０９】

Ｙ画素部は、色材として、Ｃ．Ｉ．Ｐigment Yellow 150、同215、同185、同138、同139からなる群から選ばれる少なくとも１種の黄色有機染顔料を含有するのが好ましい。

10

【０１１０】

カラーフィルタは、従来公知の方法でカラーフィルタ画素部を形成することができる。画素部の形成方法の代表的な方法としては、フォトリソグラフィ法であり、これは、後記する光硬化性組成物を、カラーフィルタ用の透明基板のブラックマトリックスを設けた側の面に塗布、加熱乾燥（プリベーク）した後、フォトマスクを介して紫外線を照射することでパターン露光を行って、画素部に対応する箇所の光硬化性化合物を硬化させた後、未露光部分を現像液で現像し、非画素部を除去して画素部を透明基板に固着させる方法である。この方法では、光硬化性組成物の硬化着色皮膜からなる画素部が透明基板上に形成される。

20

【０１１１】

Ｒ画素、Ｇ画素、Ｂ画素、必要に応じてＹ画素等の他の色の画素ごとに、後記する光硬化性組成物を調製して、前記した操作を繰り返すことにより、所定の位置にＲ画素、Ｇ画素、Ｂ画素、Ｙ画素の着色画素部を有するカラーフィルタを製造することができる。

後記する光硬化性組成物をガラス等の透明基板上に塗布する方法としては、例えば、スピコート法、ロールコート法、インクジェット法等が挙げられる。

透明基板に塗布した光硬化性組成物の塗膜の乾燥条件は、各成分の種類、配合割合等によっても異なるが、通常、 $50\sim 150$ で、 $1\sim 15$ 分間程度である。また、光硬化性組成物の光硬化に用いる光としては、 $200\sim 500\text{nm}$ の波長範囲の紫外線、あるいは可視光を使用するのが好ましい。この波長範囲の光を発する各種光源が使用できる。

30

【０１１２】

現像方法としては、例えば、液盛り法、ディッピング法、スプレー法等が挙げられる。光硬化性組成物の露光、現像の後に、必要な色の画素部が形成された透明基板は水洗いし乾燥させる。こうして得られたカラーフィルタは、ホットプレート、オーブン等の加熱装置により、 $90\sim 280$ で、所定時間加熱処理（ポストベーク）することによって、着色塗膜中の揮発性成分を除去すると同時に、光硬化性組成物の硬化着色皮膜中に残存する未反応の光硬化性化合物が熱硬化し、カラーフィルタが完成する。

【０１１３】

本発明のカラーフィルタ用色材は、本発明の液晶組成物と用いることで、液晶層の電圧保持率（VHR）の低下、イオン密度（ID）の増加を防止し、白抜け、配向むら、焼き付けなどの表示不良の問題を解決する液晶表示装置を提供することが可能となる。

40

前記光硬化性組成物の製造方法としては、本発明のカラーフィルタ用染料及び／又は顔料組成物と、有機溶剤と分散剤とを必須成分として使用し、これらを混合し均一となる様に攪拌分散を行って、まずカラーフィルタの画素部を形成するための顔料分散液を調製してから、そこに、光硬化性化合物と、必要に応じて熱可塑性樹脂や光重合開始剤等を加えて前記光硬化性組成物とする方法が一般的である。

【０１１４】

ここで用いられる有機溶媒としては、例えば、トルエンやキシレン、メトキシベンゼン等の芳香族系溶剤、酢酸エチルや酢酸プロピルや酢酸ブチル、プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノエチルエーテルアセテート、ジエ

50

チレングリコールメチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールエチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールプロピルエーテルアセテート、ジエチレングリコールブチルエーテルアセテート等の酢酸エステル系溶剤、エトキシエチルプロピオネート等のプロピオネート系溶剤、メタノール、エタノール等のアルコール系溶剤、ブチルセロソルブ、プロピレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールエチルエーテル、ジエチレングリコールジメチルエーテル等のエーテル系溶剤、メチルエチルケトン、メチルイソブチルケトン、シクロヘキサノン等のケトン系溶剤、ヘキサン等の脂肪族炭化水素系溶剤、N, N - ジメチルホルムアミド、 γ - ブチロラクタム、N - メチル - 2 - ピロリドン、アニリン、ピリジン等の窒素化合物系溶剤、 γ - ブチロラクトン等のラクトン系溶剤、カルバミン酸メチルとカルバミン酸エチルの48 : 52の混合物の様なカルバミン酸エステル等が挙げられる。

10

【0115】

ここで用いられる分散剤としては、例えば、ビックケミー社のディスパービック130、ディスパービック161、ディスパービック162、ディスパービック163、ディスパービック170、ディスパービック171、ディスパービック174、ディスパービック180、ディスパービック182、ディスパービック183、ディスパービック184、ディスパービック185、ディスパービック2000、ディスパービック2001、ディスパービック2020、ディスパービック2050、ディスパービック2070、ディスパービック2096、ディスパービック2150、ディスパービックLPN21116、ディスパービックLPN6919エフカ社のエフカ46、エフカ47、エフカ452、エフカLP4008、エフカ4009、エフカLP4010、エフカLP4050、LP4055、エフカ400、エフカ401、エフカ402、エフカ403、エフカ450、エフカ451、エフカ453、エフカ4540、エフカ4550、エフカLP4560、エフカ120、エフカ150、エフカ1501、エフカ1502、エフカ1503、ルーブリゾール社のソルスパス3000、ソルスパス9000、ソルスパス13240、ソルスパス13650、ソルスパス13940、ソルスパス17000、18000、ソルスパス20000、ソルスパス21000、ソルスパス20000、ソルスパス24000、ソルスパス26000、ソルスパス27000、ソルスパス28000、ソルスパス32000、ソルスパス36000、ソルスパス37000、ソルスパス38000、ソルスパス41000、ソルスパス42000、ソルスパス43000、ソルスパス46000、ソルスパス54000、ソルスパス71000、味の素株式会社のアジスパーPB711、アジスパーPB821、アジスパーPB822、アジスパーPB814、アジスパーPN411、アジスパーPA111等の分散剤や、アクリル系樹脂、ウレタン系樹脂、アルキッド系樹脂、ウッドロジン、ガムロジン、トール油ロジン等の天然ロジン、重合ロジン、不均化ロジン、水添ロジン、酸化ロジン、マレイン化ロジン等の変性ロジン、ロジンアミン、ライムロジン、ロジナルキレンオキシド付加物、ロジナルキド付加物、ロジン変性フェノール等のロジン誘導体等の、室温で液状かつ水不溶性の合成樹脂を含有させることが出来る。これら分散剤や、樹脂の添加は、フロキュレーションの低減、顔料の分散安定性の向上、分散体の粘度特性を向上にも寄与する。

20

30

40

【0116】

また、分散助剤として、有機顔料の、例えば、フタルイミドメチル誘導体、同スルホン酸誘導体、同N - (ジアルキルアミノ)メチル誘導体、同N - (ジアルキルアミノアルキル)スルホン酸アミド誘導体等も含有することも出来る。もちろん、これら誘導体は、異なる種類のものを二種以上併用することも出来る。

【0117】

光硬化性組成物の調製に使用する熱可塑性樹脂としては、例えば、ウレタン系樹脂、アクリル系樹脂、ポリアミド系樹脂、ポリイミド系樹脂、スチレンマレイン酸系樹脂、スチレン無水マレイン酸系樹脂等が挙げられる。

【0118】

50

光硬化性化合物としては、例えば、1, 6 - ヘキサンジオールジアクリレート、エチレングリコールジアクリレート、ネオペンチルグリコールジアクリレート、トリエチレングリコールジアクリレート、ビス(アクリロキシエトキシ)ビスフェノールA、3 - メチルペンタンジオールジアクリレート等のような2官能モノマー、トリメチルロールプロパントリアクリレート、ペンタエリスリトールトリアクリレート、トリス〔2 - (メタ)アクリロイルオキシエチル〕イソシアヌレート、ジペンタエリスリトールヘキサアクリレート、ジペンタエリスリトールペンタアクリレート等の比較的分子量の小さな多官能モノマー、ポリエステルアクリレート、ポリウレタンアクリレート、ポリエーテルアクリレート等の様な比較的分子量の大きな多官能モノマーが挙げられる。

【0119】

光重合開始剤としては、例えばアセトフェノン、ベンゾフェノン、ベンジルジメチルケタール、ベンゾイルパーオキサイド、2 - クロロチオキサントン、1, 3 - ビス(4' - アジドベンザル) - 2 - プロパン、1, 3 - ビス(4' - アジドベンザル) - 2 - プロパン - 2' - スルホン酸、4, 4' - ジアジドスチルベン - 2, 2' - ジスルホン酸等が挙げられる。市販の光重合開始剤としては、たとえば、BASF社製「イルガキュア(商標名) - 184」、「イルガキュア(商標名) - 369」、「ダロキュア(商標名) - 1173」、BASF社製「ルシリン - TPO」、日本化薬社製「カヤキュアー(商標名) DETX」、「カヤキュアー(商標名) OA」、ストファーマ社製「バイキュアー10」、「バイキュアー55」、アクゾー社製「トリゴナールPI」、サンド社製「サンドレー1000」、アップジョン社製「デープ」、黒金化成社製「ビミダゾール」などがある。

【0120】

また上記光重合開始剤に公知慣用の光増感剤を併用することもできる。光増感剤としては、たとえば、アミン類、尿素類、硫黄原子を有する化合物、燐原子を有する化合物、塩素原子を有する化合物またはニトリル類もしくはその他の窒素原子を有する化合物等が挙げられる。これらは、単独で用いることも、2種以上を組み合わせ用いることもできる。

光重合開始剤の配合率は、特に限定されるものではないが、質量基準で、光重合性あるいは光硬化性官能基を有する化合物に対して0.1 ~ 30%の範囲が好ましい。0.1%未満では、光硬化時の感光度が低下する傾向にあり、30%を超えると、顔料分散レジストの塗膜を乾燥させたときに、光重合開始剤の結晶が析出して塗膜物性の劣化を引き起こすことがある。

【0121】

前記した様な各材料を使用して、質量基準で、本発明のカラーフィルタ用染料及び/又は顔料組成物100部当たり、300 ~ 1000部の有機溶剤と、1 ~ 100部の分散剤とを、均一となる様に攪拌分散して前記染顔料液を得ることができる。次いでこの顔料分散液に、本発明のカラーフィルタ用顔料組成物1部当たり、熱可塑性樹脂と光硬化性化合物の合計が3 ~ 20部、光硬化性化合物1部当たり0.05 ~ 3部の光重合開始剤と、必要に応じてさらに有機溶剤を添加し、均一となる様に攪拌分散してカラーフィルタ画素部を形成するための光硬化性組成物を得ることができる。

現像液としては、公知慣用の有機溶剤やアルカリ水溶液を使用することができる。特に前記光硬化性組成物に、熱可塑性樹脂または光硬化性化合物が含まれており、これらの少なくとも一方が酸価を有し、アルカリ可溶性を呈する場合には、アルカリ水溶液での洗浄がカラーフィルタ画素部の形成に効果的である。

【0122】

フォトリソグラフィー法によるカラーフィルタ画素部の製造方法について詳記したが、本発明のカラーフィルタ用顔料組成物を使用して調製されたカラーフィルタ画素部は、その他の電着法、転写法、ミセル電解法、PVED(Photovoltaic Electrodeposition)法、インクジェット法、反転印刷法、熱硬化法等の方法で各色画素部を形成して、カラーフィルタを製造してもよい。

【0123】

(配向膜)

本発明の液晶表示装置において、第一の基板と、第二の基板上の液晶組成物と接する面には液晶組成物を配向させるため、配向膜を必要とする液晶表示装置においてはカラーフィルタと液晶層間に配置するものであるが、配向膜の膜厚が厚いものでも100nm以下と薄く、カラーフィルタを構成する顔料等の色素と液晶層を構成する液晶化合物との相互作用を完全に遮断するものではない。

又、配向膜を用いない液晶表示装置においては、カラーフィルタを構成する顔料等の色素と液晶層を構成する液晶化合物との相互作用はより大きくなる。

【 0 1 2 4 】

配向膜材料としては、ポリイミド、ポリアミド、BCB（ベンゾシクロブテンポリマー）、ポリビニルアルコールなどの透明性有機材料を用いることができ、特に、p-フェニレンジアミン、4,4'-ジアミノジフェニルメタンなどの脂肪族または脂環族ジアミン等のジアミン及びブタンテトラカルボン酸無水物や2,3,5-トリカルボキシシクロペンチル酢酸無水物等の脂肪族又は脂環式テトラカルボン酸無水物、ピロメリット酸二無水物等の芳香族テトラカルボン酸無水物から合成されるポリアミック酸をイミド化した、ポリイミド配向膜が好ましい。この場合の配向付与方法は、ラビングを用いることが一般的であるが、垂直配向膜等に使用する場合は配向を付与しないで使用することもできる。

【 0 1 2 5 】

配向膜材料としては、カルコン、シンナメート、シンナモイル又はアゾ基等を化合物中に含む、材料を使用することができ、ポリイミド、ポリアミド等の材料と組み合わせて使用してもよく、この場合配向膜はラビングを用いてもよく光配向技術を用いてもよい。

配向膜は、基板上に前記配向膜材料をスピンコート法などの方法により塗布して樹脂膜を形成することが一般的であるが、一軸延伸法、ラングミュア・プロジェット法等を用いることもできる。

【 0 1 2 6 】

(透明電極)

本発明の液晶表示装置において、透明電極の材料としては、導電性の金属酸化物を用いることができ、金属酸化物としては酸化インジウム(In_2O_3)、酸化スズ(SnO_2)、酸化亜鉛(ZnO)、酸化インジウムスズ($\text{In}_2\text{O}_3-\text{SnO}_2$)、酸化インジウム亜鉛($\text{In}_2\text{O}_3-\text{ZnO}$)、ニオブ添加二酸化チタン($\text{Ti}_{1-x}\text{Nb}_x\text{O}_2$)、フッ素ドーパ酸化スズ、グラフェンナノリボン又は金属ナノワイヤー等が使用できるが、酸化亜鉛(ZnO)、酸化インジウムスズ($\text{In}_2\text{O}_3-\text{SnO}_2$)又は酸化インジウム亜鉛($\text{In}_2\text{O}_3-\text{ZnO}$)が好ましい。これらの透明導電膜のパターニングには、フォトリソ法やマスクを用いる方法などを使用することができる。

【 実施例 】

【 0 1 2 7 】

以下、実施例を挙げて本発明の最良の形態の一部を詳述するが、本発明はこれらの実施例に限定されるものではない。また、以下の実施例及び比較例の組成物における「%」は『質量%』を意味する。

液晶組成物の物性として、以下のように表す。

T_{N-1} : ネマチック相 - 等方性液体相転移温度()を液晶相上限温度

$\Delta\epsilon$: 誘電率異方性

Δn : 屈折率異方性

η : 20における粘性($\text{mPa}\cdot\text{s}$)

d_{gap} : セルの第一基板と第二基板のギャップ(μm)

VHR : 70における電圧保持率(%)

(セル厚3.5 μm のセルに液晶組成物を注入し、5V印加、フレームタイム200ms、パルス幅64 μs の条件で測定した時の測定電圧と初期印加電圧との比を%で表した値)

ID : 70におけるイオン密度(pC/cm^2)

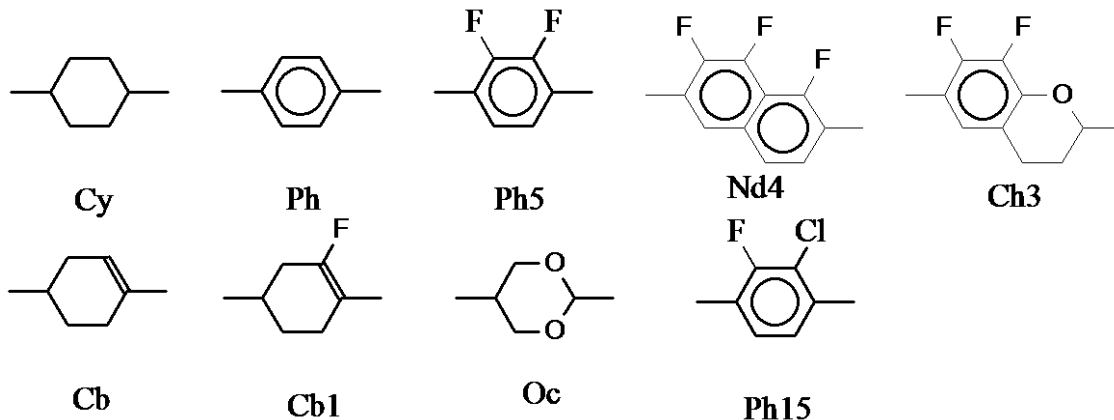
(セル厚 3.5 μm のセルに液晶組成物を注入し、MTR-1 (株式会社東陽テクニカ製) で 20 V 印加、周波数 0.05 Hz の条件で測定した時のイオン密度値)

化合物記載に下記の略号を使用する。

末端のn(数字) $C_nH_{2n+1}-$
 -2- $-CH_2CH_2-$
 -10- $-CH_2O-$
 -O1- $-OCH_2-$
 -On $-OC_nH_{2n+1}$
 -1=1- $-HC=CH-$
 -VO- $-COO-$
 ndm- $C_nH_{2n+1}-HC=CH-(CH_2)_{m-1}-$

【0128】

【化29】



【0129】

液晶表示装置の焼き付き評価は、表示エリア内に所定の固定パターンを1000時間表示させた後に、全画面均一な表示を行ったときの固定パターンの残像のレベルを目視にて以下の4段階評価で行った。

残像無し

○ 残像ごく僅かに有るも許容できるレベル

残像有り許容できないレベル

× 残像有りかなり劣悪

【0130】

[カラーフィルタの作成]

[着色組成物の調製]

[赤色顔料着色組成物 1]

赤色顔料 1 (水溶分 0.3%、比電導度 $30 \mu S/cm$ の C.I. Pigment Red 254) 10 部をポリビンに入れ、プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート 55 部、ディスパービック LPN 21116 (ビックケミー株式会社製) 7.0 部、0.3 - 0.4 mm φ セブルビーズを加え、ペイントコンディショナー (東洋精機株式会社製) で 4 時間分散した後、5 μm のフィルタで濾過し顔料分散液を得た。この顔料分散液 75.00 部とポリエステルアクリレート樹脂 (アロニックス (商標名) M7100、東亜合成化学工業株式会社製) 5.50 部、ジペンタエリストールヘキサアクリレート (KAYARAD (商標名) DPHA、日本化薬株式会社製) 5.00 部、ベンゾフェノン (KAYACURE (商標名) BP-100、日本化薬株式会社製) 1.00 部、ユーカーエステル EEP 13.5 部を分散攪拌機で攪拌し、孔径 1.0 μm のフィルタで濾過し、赤色顔料着色組成物 1 を得た。

【0131】

なお、顔料の水溶分は、JIS K 5101-16-1 (顔料試験方法 - 第 16 部: 水

10

20

30

40

50

溶分 - 第 1 節：煮沸抽出法）に基づくものである。

【 0 1 3 2 】

具体的には、

1. 顔料 5.00 g を 500 mL の硬質ビーカーに正しく計り取り、イオン交換水（電導度 $5 \mu S / cm$ 以下、 $pH = 7.0 \pm 1.0$ ）200 mL を、初め少量ずつ加え、試薬一級メタノール 5 mL を加えてよく濡らした後、全量を加え 5 分間煮沸する。

2. これを室温まで冷却し、250 mL メスシリンダーに移し、更に上記イオン交換水を加えて 250 mL とし、よくかき混ぜてアドバンテック社製の紙 No. 5 C にてろ過する。

3. る液の最初の約 50 mL を捨て、残りの中から 100 mL をメスシリンダーで計り取り、質量既知の蒸発皿に移す。メスシリンダーに付着したる液は少量のイオン交換水で蒸発皿に洗い流す。

4. この蒸発皿を水浴上で蒸発乾固させ、105 ~ 110 に保った乾燥器中で 2 時間乾燥した後デシケーターに入れ、放冷した後の質量を計り、蒸発残量を求める。

5. 次式により水溶分を算出する。

$$\text{顔料の水溶分}(\%) = \text{蒸発残量}(\text{g}) \times 2.5 / \text{顔料の質量}(\text{g}) \times 100$$

また、顔料の比電導度は、イオン交換水の比電導度を電導度計（東亜ディーケーケー株式会社製 CM-30 V 型等）を使用して測定した後、上記 3 で 100 mL をメスシリンダーで計り取ったる液を同じ電導度計を使用して測定し、次式により測定値を補正して算出する。

$$\text{顔料の比電導度} = \text{る液の比電導度} - \text{用いたイオン交換水の比電導度}$$

【 0 1 3 3 】

[赤色顔料着色組成物 2]

上記赤色顔料着色組成物 1 の赤色顔料 1 10 部に代え、赤色顔料 1 6 部と赤色顔料 2（水溶分 0.5%、比電導度 $40 \mu S / cm$ の C. I. Pigment Red 177）2 部、黄色顔料 1（水溶分 0.4%、比電導度 $40 \mu S / cm$ の C. I. Pigment Yellow 139）2 部を混合した顔料（水溶分 0.4%、比電導度 $30 \mu S / cm$ ）を用いて、上記と同様にして、赤色顔料着色組成物 2 を得た。

【 0 1 3 4 】

[赤色顔料着色組成物 3]

上記赤色顔料着色組成物 1 の赤色顔料 1 10 部に代え、赤色顔料 3（水溶分 0.6%、比電導度 $60 \mu S / cm$ の C. I. Pigment Red 255）10 部を用いて、上記と同様にして、赤色顔料着色組成物 3 を得た。

【 0 1 3 5 】

[赤色顔料着色組成物 4]

上記赤色顔料着色組成物 1 の赤色顔料 1 10 部に代え、赤色顔料 4（水溶分 0.2%、比電導度 $25 \mu S / cm$ の C. I. Pigment Red 264）8 部、黄色顔料 1（水溶分 0.4%、比電導度 $40 \mu S / cm$ の C. I. Pigment Yellow 139）2 部を混合した顔料（水溶分 0.2%、比電導度 $30 \mu S / cm$ ）を用いて、上記と同様にして、赤色顔料着色組成物 4 を得た。

【 0 1 3 6 】

[赤色顔料着色組成物 5]

上記赤色顔料着色組成物 1 の赤色顔料 1 10 部に代え、赤色顔料 5（水溶分 1.6%、比電導度 $170 \mu S / cm$ の C. I. Pigment Red 48:1）10 部を用いて、上記と同様にして、赤色顔料着色組成物 5 を得た。

【 0 1 3 7 】

[緑色顔料着色組成物 1]

上記赤色顔料着色組成物 1 の赤色顔料 1 10 部に代え、緑色顔料 1（水溶分 0.3%、比電導度 $40 \mu S / cm$ の C. I. Pigment Green 36）6 部と黄色顔料 2（水溶分 0.6%、比電導度 $70 \mu S / cm$ の C. I. Pigment Yellow

10

20

30

40

50

150) 4部を混合した顔料(水溶分0.4%、比電導度50 $\mu\text{S}/\text{cm}$)を用いて、上記と同様にして、緑色顔料着色組成物1を得た。

【0138】

[緑色顔料着色組成物2]

上記緑色顔料着色組成物1の緑色顔料1 6部、黄色顔料2 4部に代え、緑色顔料2 (水溶分0.2%、比電導度30 $\mu\text{S}/\text{cm}$ のC.I. Pigment Green 7) 4部と黄色顔料3 (水溶分0.2%、比電導度30 $\mu\text{S}/\text{cm}$ のC.I. Pigment Yellow 138) 6部を混合した顔料(水溶分0.2%、比電導度30 $\mu\text{S}/\text{cm}$)を用いて、上記と同様にして、緑色顔料着色組成物2を得た。

【0139】

[緑色顔料着色組成物3]

上記緑色顔料着色組成物1の緑色顔料1 6部、黄色顔料2 4部に代え、緑色顔料3 (水溶分0.2%、比電導度25 $\mu\text{S}/\text{cm}$ のC.I. Pigment Green 58) 6部と黄色顔料3 (水溶分0.2%、比電導度30 $\mu\text{S}/\text{cm}$ のC.I. Pigment Yellow 138) 4部を混合した顔料(水溶分0.2%、比電導30 $\mu\text{S}/\text{cm}$)を用いて、上記と同様にして、緑色顔料着色組成物3を得た。

【0140】

[緑色顔料着色組成物4]

上記緑色顔料着色組成物1の緑色顔料1 6部、黄色顔料2 4部に代え、緑色顔料3 (水溶分0.2%、比電導度25 $\mu\text{S}/\text{cm}$ のC.I. Pigment Green 58) 6部と黄色顔料3 (水溶分0.2%、比電導度30 $\mu\text{S}/\text{cm}$ のC.I. Pigment Yellow 138) 3.6部と特開2004-292785号公報の製造例2に記載のYELLOW 138のスルホン酸誘導体0.4部を混合した顔料(水溶分0.7%、比電導度80 $\mu\text{S}/\text{cm}$)を用いて、上記と同様にして、緑色顔料着色組成物3を得た。

【0141】

[緑色顔料着色組成物5]

上記緑色顔料着色組成物1の緑色顔料1 6部、黄色顔料2 4部に代え、緑色顔料4 (水溶分1.7%、比電導度180 $\mu\text{S}/\text{cm}$ のC.I. Pigment Green 4) 6部と黄色顔料4 (水溶分1.9%、比電導度190 $\mu\text{S}/\text{cm}$ のC.I. Pigment Yellow 62) 4部を混合した顔料(水溶分1.8%、比電導度190 $\mu\text{S}/\text{cm}$)を用いて、上記と同様にして、緑色顔料着色組成物3を得た。

【0142】

[青色顔料着色組成物1]

上記赤色顔料着色組成物1の赤色顔料1 10部に代え、青色顔料1 (水溶分0.2%、比電導度20 $\mu\text{S}/\text{cm}$ のC.I. Pigment Blue 15:6) 9部と紫色顔料1 (水溶分0.7%、比電導度80 $\mu\text{S}/\text{cm}$ のC.I. Pigment Violet 23) 1部を混合した顔料(水溶分0.3%、比電導度30 $\mu\text{S}/\text{cm}$)を用いて、上記と同様にして、青色顔料着色組成物1を得た。

【0143】

[青色顔料着色組成物2]

上記青色顔料着色組成物1の青色顔料1の水溶分を0.5%、比電導度を50 $\mu\text{S}/\text{cm}$ に代えた青色顔料2と混合した顔料(水溶分0.5%、比電導度50 $\mu\text{S}/\text{cm}$)を用いて上記と同様にして、青色顔料着色組成物2を得た。

【0144】

[青色顔料着色組成物3]

上記青色顔料着色組成物1の青色顔料1 9部、紫色顔料1 1部に代え、一般式(1)で表されるトリアリールメタン顔料(表1化合物No.5、水溶分1.1%、比電導度114 $\mu\text{S}/\text{cm}$) 10部を用いて、上記と同様にして、青色顔料着色組成物3を得た。

【0145】

10

20

30

40

50

〔青色顔料着色組成物 4〕

上記青色顔料着色組成物 1 の青色顔料 1 9 部、紫色顔料 1 1 部に代え、青色顔料 3 (水溶分 1.3%、比電導度 $160 \mu\text{S}/\text{cm}$ の C. I. Pigment Blue 1) 10 部を用いて、上記と同様にして、青色顔料着色組成物 4 を得た。

【0146】

〔青色顔料着色組成物 5〕

上記青色顔料着色組成物 1 の青色顔料 1 9 部、紫色顔料 1 1 部に代え、青色顔料 4 (水溶分 1.8%、比電導度 $200 \mu\text{S}/\text{cm}$ の C. I. Pigment Blue 61) 10 部を用いて、上記と同様にして、青色顔料着色組成物 4 を得た。

【0147】

〔黄色顔料着色組成物 1〕

上記赤色顔料着色組成物 1 の赤色顔料 1 10 部に代え、黄色顔料 5 (水溶分 0.5%、比電導度 $50 \mu\text{S}/\text{cm}$ の C. I. Pigment Yellow 138) 9 部と特開 2004-292785 号公報の製造例 2 に記載の YELLOW 138 のスルホン酸誘導体 1 部を混合した顔料 (水溶分 1.6%、比電導度 $120 \mu\text{S}/\text{cm}$) 上記と同様にして、上記と同様にして、黄色顔料着色組成物 1 を得た。

【0148】

〔黄色顔料着色組成物 2〕

上記黄色顔料組成物 1 の黄色顔料 2 に代え、黄色顔料 2 (水溶分 0.6%、比電導度 $70 \mu\text{S}/\text{cm}$ の C. I. Pigment Yellow 150) 10 部を用いて上記と同様にして、黄色顔料着色組成物 2 を得た。

【0149】

〔カラーフィルタの作製〕

予めブラックマトリックスが形成されてあるガラス基板に、赤色着色組成物をスピンコートにより膜厚 $2 \mu\text{m}$ となるように塗布した。70 で 20 分間乾燥の後、超高圧水銀ランプを備えた露光機にて紫外線を、フォトマスクを介してストライプ状のパターン露光をした。アルカリ現像液にて 90 秒間スプレー現像、イオン交換水で洗浄し、風乾した。さらに、クリーンオープン中で、230 で 30 分間ポストバークを行い、ストライプ状の着色層である赤色画素を透明基板上に形成した。

次に、緑色着色組成物も同様にスピンコートにて膜厚が $2 \mu\text{m}$ となるように塗布。乾燥後、露光機にてストライプ状の着色層を前述の赤色画素とはずらした場所に露光し現像することで、前述赤色画素と隣接した緑色画素を形成した。

次に、青色着色組成物についても同様にスピンコートにて膜厚 $2 \mu\text{m}$ で赤色画素、緑色画素と隣接した青色画素を形成した。これで、透明基板上に赤、緑、青の 3 色のストライプ状の画素を持つカラーフィルタが得られた。

必要に応じて、黄色着色組成物についても、同様にスピンコートにて膜厚 $2 \mu\text{m}$ で緑色画素、青色画素と隣接した黄色画素を形成した。これで、透明基板上に赤、緑、青、黄の 4 色のストライプ状の画素を持つカラーフィルタが得られた。

表 8 に示す染料着色組成物又は顔料着色組成物を用い、カラーフィルタ 1 ~ 4 及び比較カラーフィルタ 1 を作成した。

【0150】

10

20

30

40

【表 8】

	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4	比較カラーフィルタ 1
R画素部	赤色顔料着色組成物 1	赤色顔料着色組成物 2	赤色顔料着色組成物 3	赤色顔料着色組成物 4	赤色顔料着色組成物 5
G画素部	緑色顔料着色組成物 1	緑色顔料着色組成物 2	緑色顔料着色組成物 3	緑色顔料着色組成物 4	緑色顔料着色組成物 5
B画素部	青色顔料着色組成物 1	青色顔料着色組成物 2	青色顔料着色組成物 3	青色顔料着色組成物 4	青色顔料着色組成物 5
Y画素部	無し	黄色顔料着色組成物 1	無し	黄色顔料着色組成物 2	黄色顔料着色組成物 2

10

【0151】

(実施例 1 ~ 4)

電極構造を第一及び第二の基板に作成し、各々の対向側に垂直配向性の配向膜を形成したのち弱ラビング処理を行い、VAセルを作成し、第一の基板と第二の基板の間に表 9 に示す負の誘電異方性を有する液晶組成物 1 を挟持した。次に、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 1 ~ 4 の液晶表示装置を作成した ($d_{gap} = 3.5 \mu m$ 、配向膜 SE-5300)。得られた液晶表示装置のVHR及びIDを測定した。また、得られた液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 10 に示す。

20

【0152】

【表 9】

	液晶組成物 1
Od1-Cy-Cy-3	20
3-Cy-Cy-2	15
3-Cy-Ph-O1	5
Od1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-2	11
Od1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-3	11
Od1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-4	11
Od1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-5	11
Od1-Cy-Cy-10-Ph5-O3d0	4
Od1-Cy-Cy-10-Ph5-O4d0	4
Od1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-Cy-2	4
Od1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-Cy-3	4
組成比計 (%)	100
Tni/°C	82.4
$\Delta n(20^\circ C)$	0.074
$\eta_{20}/mPa \cdot s$	16.1
$\Delta \epsilon(20^\circ C)$	-4.7

30

40

【0153】

【表 10】

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4
液晶組成物	液晶組成物 1	液晶組成物 1	液晶組成物 1	液晶組成物 1
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.1	99.0
ID	16	23	65	77
焼き付き	◎	◎	○	○

【0154】

10

実施例 1～4 の液晶表示装置は、高い VHR 及び小さい ID を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【0155】

(比較例 1～8)

実施例 1 で用いた VA セルに表 11 に示す負の誘電異方性を有する比較液晶組成物 1 及び比較液晶組成物 2 を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1～4 を用いて比較例 1～8 の液晶表示装置を作製し、その VHR 及び ID を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 12 及び表 13 に示す。

【0156】

20

【表 11】

	比較液晶組成物 1	比較液晶組成物 2
0d1-Cy-Cy-3	20	20
3-Cy-Cy-2	15	14
3-Cy-Ph-O1	5	5
0d1-Cy-10-Ph15-O1-Cy-2	8	8
0d1-Cy-10-Ph15-O1-Cy-3	8	8
0d1-Cy-10-Ph15-O1-Cy-4	10	10
0d1-Cy-10-Ph15-O1-Cy-5	10	10
0d1-Cy-Cy-10-Ph15-O3d0	4	4
0d1-Cy-Cy-10-Ph15-O4d0	4	4
0d1-Cy-10-Ph15-O1-Cy-Cy-2	4	4
0d1-Cy-10-Ph15-O1-Cy-Cy-3	4	4
3-Cy-Oc-Ph15-O1		8
3-Cy-Cb1-Ph15-O2	3	
5-Cy-Cb1-Ph15-O2	3	
5-Cy-Cb-Ph15-O2	2	
組成比計 (%)	100	100
T _{ni} /°C	81.9	81.3
Δn(20°C)	0.073	0.074
η ₂₀ /mPa·s	17.3	16.8
Δε(20°C)	-4.6	-4.7

30

40

【0157】

【表 1 2】

	比較例 1	比較例 2	比較例 3	比較例 4
液晶組成物	比較液晶組成物 1	比較液晶組成物 1	比較液晶組成物 1	比較液晶組成物 1
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	98.6	98.4	98.3	98.0
ID	118	125	140	153
焼き付き	△	×	×	×

10

【0 1 5 8】

【表 1 3】

	比較例 5	比較例 6	比較例 7	比較例 8
液晶組成物	比較液晶組成物 2	比較液晶組成物 2	比較液晶組成物 2	比較液晶組成物 2
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	98.5	98.4	98.2	97.9
ID	121	127	145	160
焼き付き	×	×	×	×

20

【0 1 5 9】

比較例 1 ～ 8 の液晶表示装置は、本願発明の液晶表示装置と比較して、VHR は低く、ID も大きくなってしまった。また、焼き付き評価においても残像の発生が認められ許容できるレベルではなかった。

【0 1 6 0】

(比較例 9)

実施例 1 で用いた VA セルに表 9 に示す負の誘電異方性を有する液晶組成物 1 を挟持し、表 8 に示す比較カラーフィルタ 1 を用いて比較例 9 の液晶表示装置を作製し、その VHR 及び ID を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 1 4 に示す。

30

【0 1 6 1】

【表 1 4】

	比較例 9
液晶組成物	液晶組成物 1
カラーフィルタ	比較カラーフィルタ 1
VHR	97.3
ID	218
焼き付き	×

40

【0 1 6 2】

比較例 9 の液晶表示装置は、本願発明の液晶表示装置と比較して、VHR は低く、ID も大きくなってしまった。また、焼き付き評価においても残像の発生が認められ許容できるレベルではなかった。

【0 1 6 3】

(比較例 1 0 ～ 1 3)

実施例 1 と同様に表 1 5 に示す負の誘電異方性を有する比較液晶組成物 3 を挟持し、表

50

8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて比較例 10 ~ 13 の液晶表示装置を作製し、その VHR 及び ID を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 16 に示す。

【 0 1 6 4 】

【表 15】

	比較液晶組成物3
3-Cy-Ph15-O4	11
5-Cy-Ph15-O4	11
2-Cy-Cy-Ph15-1	12
2-Cy-Cy-Ph15-O2	9
3-Cy-Cb1-Ph15-O2	4
3-Cy-Cy-Ph15-1	12
3-Cy-Cy-Ph15-O2	9
5-Cy-Cb1-Ph15-O2	6
5-Cy-Cb-Ph15-O2	18
5-Cy-Cy-Ph15-O2	8
組成比計(%)	100
Tni/°C	118.1
$\Delta n(20^{\circ}\text{C})$	0.105
$n_e(20^{\circ}\text{C})$	1.586
$\Delta \varepsilon(20^{\circ}\text{C})$	-6.4
$\varepsilon_{\perp}(20^{\circ}\text{C})$	10.4
K3/K1(20°C)	1.05
K1/pN(20°C)	20.2

10

20

【 0 1 6 5 】

【表 16】

	比較例 10	比較例 11	比較例 12	比較例 13
液晶組成物	比較液晶組成物 3	比較液晶組成物 3	比較液晶組成物 3	比較液晶組成物 3
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	98.4	98.3	98.2	98.0
ID	122	129	147	164
焼き付き	△	×	×	×

30

40

【 0 1 6 6 】

比較例 10 ~ 13 の液晶表示装置は、本願発明の液晶表示装置と比較して、VHR は低く、ID も大きくなってしまった。また、焼き付き評価においても残像の発生が認められ許容できるレベルではなかった。

【 0 1 6 7 】

(実施例 5 ~ 12)

実施例 1 と同様に表 17 に示す負の誘電異方性液晶を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 5 ~ 12 の液晶表示装置を作成し、その VHR 及び ID を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 18 及び 19 に示す。

。

50

【 0 1 6 8 】

【 表 1 7 】

	液晶組成物2	液晶組成物3
3-Cy-10-Ph5-O2	11	11
5-Cy-10-Ph5-O2	10	10
0d1-Cy-Cy-3	20	
0d1-Cy-Cy-5		20
0d3-Cy-Cy-3	10	10
3-Cy-1=1-Cy-3	10	10
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-3		5
0d1-Cy-Cy-10-Ph5-O3d0		5
0d1-Cy-Cy-10-Ph5-O4d0		5
2-Cy-Cy-10-Ph5-O2	5	5
3-Cy-Cy-10-Ph5-O2	12	12
4-Cy-Cy-10-Ph5-O2	5	5
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-Cy-1d0	12	
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-Cy-2	5	
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-Cy-3		2
組成比計(%)	100	100
T _{ni} /°C	79.6	78.9
Δn(20°C)	0.074	0.075
η ₂₀ /mPa·s	17.8	18.2
Δε(20°C)	-4.8	-4.8

10

20

【 0 1 6 9 】

【 表 1 8 】

	実施例5	実施例6	実施例7	実施例8
液晶組成物	液晶組成物2	液晶組成物2	液晶組成物2	液晶組成物2
カラーフィルタ	カラーフィルタ1	カラーフィルタ2	カラーフィルタ3	カラーフィルタ4
VHR	99.6	99.4	99.3	99.2
ID	15	25	36	60
焼き付き	◎	◎	◎	◎

30

【 0 1 7 0 】

【 表 1 9 】

	実施例9	実施例10	実施例11	実施例12
液晶組成物	液晶組成物3	液晶組成物3	液晶組成物3	液晶組成物3
カラーフィルタ	カラーフィルタ1	カラーフィルタ2	カラーフィルタ3	カラーフィルタ4
VHR	99.6	99.4	99.2	99.1
ID	19	25	63	72
焼き付き	◎	◎	◎	○

40

【 0 1 7 1 】

実施例5～12の液晶表示装置は、高いVHR及び小さいIDを実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであ

50

った。

【 0 1 7 2 】

(実施例 1 3 ~ 2 8)

実施例 1 と同様に表 2 0 に示す負の誘電異方性液晶を狭持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 1 3 ~ 2 8 の液晶表示装置作成し、その V H R 及び I D を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 2 1 ~ 2 4 に示す。

【 0 1 7 3 】

【 表 2 0 】

	液晶組成物4	液晶組成物5	液晶組成物6	液晶組成物7
0d1-Cy-10-Ph5-O3d0				5
0d1-Cy-10-Ph5-O4d0				5
0d1-Cy-Cy-3	10			4
3-Cy-Cy-2	10	18		10
3-Cy-Cy-4		6	15	3
3-Cy-Ph-O2	12	12	15	4
5-Ph-Ph-1	10	3	3	10
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-2	10	10	10	
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-3	12	12	12	
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-4	12	12	12	
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-5	10	10	10	
0d1-Cy-Cy-10-Ph5-O1d0				10
0d1-Cy-Cy-10-Ph5-O2d0				10
0d1-Cy-Cy-10-Ph5-O3d0				15
0d1-Cy-Cy-10-Ph5-O4d0				15
3-Cy-Cy-Ph-1	6	3		6
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-Cy-2	4	4	4	
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-Cy-3	4	4	4	
組成比計(%)	100	100	100	100
T _{ni} /°C	75.5	81.8	83.5	75.1
Δn(20°C)	0.088	0.077	0.078	0.087
η 20/mPa・s	16	16.5	20.2	15.5
Δε(20°C)	-4.2	-4.2	-4.2	-4.3

【 0 1 7 4 】

【 表 2 1 】

	実施例 1 3	実施例 1 4	実施例 1 5	実施例 1 6
液晶組成物	液晶組成物 4	液晶組成物 4	液晶組成物 4	液晶組成物 4
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.1	99.0
I D	18	27	59	72
焼き付き	◎	◎	◎	◎

【 0 1 7 5 】

【表 2 2】

	実施例 1 7	実施例 1 8	実施例 1 9	実施例 2 0
液晶組成物	液晶組成物 5	液晶組成物 5	液晶組成物 5	液晶組成物 5
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.2	99.1
I D	16	21	60	73
焼き付き	◎	◎	◎	○

【 0 1 7 6 】

10

【表 2 3】

	実施例 2 1	実施例 2 2	実施例 2 3	実施例 2 4
液晶組成物	液晶組成物 6	液晶組成物 6	液晶組成物 6	液晶組成物 6
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.7	99.5	99.3	99.2
I D	15	20	49	61
焼き付き	◎	◎	◎	◎

【 0 1 7 7 】

20

【表 2 4】

	実施例 2 5	実施例 2 6	実施例 2 7	実施例 2 8
液晶組成物	液晶組成物 7	液晶組成物 7	液晶組成物 7	液晶組成物 7
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.3	99.1	99.0
I D	21	48	64	74
焼き付き	◎	◎	○	○

【 0 1 7 8 】

30

実施例 1 3 ~ 2 8 の液晶表示装置は、高い V H R 及び小さい I D を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 1 7 9 】

(実施例 2 9 ~ 4 0)

実施例 1 と同様に表 2 5 に示す負の誘電異方性液晶を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 2 9 ~ 4 0 の液晶表示装置作成し、その V H R 及び I D を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 2 6 ~ 2 8 に示す。

【 0 1 8 0 】

【表 2 5】

	液晶組成物 8	液晶組成物 9	液晶組成物 10
2-Cy-2-Nd4-O2		4	4
2-Cy-2-Nd4-O4		4	4
3-Cy-10-Ch3-5	3		
3-Cy-10-Nd4-O4	3	4	4
5-Cy-10-Ch3-5	3		
5-Cy-10-Nd4-O2	2		
5-Cy-10-Nd4-O3	3	4	4
0d1-Cy-Cy-5		23	
0d3-Cy-Cy-3		10	
1d1-Cy-Cy-3		8	
3-Cy-Cy-2	15		
3-Cy-Cy-4	7	6	22
3-Cy-Cy-5	7		22
3-Cy-Ph-2		15	15
3-Cy-Ph-O1	5		
3-Cy-Ph-O2	5		
5-Ph-Ph-1	6		
2-Cy-Cy-10-Nd4-O2	3	4	4
2-Cy-Cy-10-Nd4-O4	2	4	4
3-Cy-2-Cy-10-Nd4-O2	4		
3-Cy-2-Cy-10-Nd4-O3	4		
3-Cy-Cy-10-Ch3-5	3		
3-Cy-Cy-10-Nd4-O4	3	4	4
4-Cy-Cy-10-Ch3-5	3		
4-Cy-Cy-10-Nd4-O2	2	4	4
4-Cy-Cy-2-Nd4-O2		6	6
3-Cy-Cy-Ph-1	8		3
組成比計(%)	100	100	100
Tni/°C	92	90	91
$\Delta n(20^\circ\text{C})$	0.093	0.092	0.093
$\eta\ 20/\text{mPa}\cdot\text{s}$	24.9	24.1	25.5
$\Delta\epsilon(20^\circ\text{C})$	-3.3	-3.2	-3.2

【0181】

【表 2 6】

	実施例 2 9	実施例 3 0	実施例 3 1	実施例 3 2
液晶組成物	液晶組成物 8	液晶組成物 8	液晶組成物 8	液晶組成物 8
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.7	99.5	99.2	98.9
ID	14	25	79	89
焼き付き	◎	◎	○	○

【0182】

【表 27】

	実施例 33	実施例 34	実施例 35	実施例 36
液晶組成物	液晶組成物 9	液晶組成物 9	液晶組成物 9	液晶組成物 9
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.6	99.4	99.2	99.1
ID	19	26	51	66
焼き付き	◎	◎	◎	○

【0183】

10

【表 28】

	実施例 37	実施例 38	実施例 39	実施例 40
液晶組成物	液晶組成物 10	液晶組成物 10	液晶組成物 10	液晶組成物 10
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.2	99.1
ID	21	26	62	73
焼き付き	◎	◎	○	○

【0184】

20

実施例 29～40 の液晶表示装置は、高い VHR 及び小さい ID を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【0185】

(実施例 41～48)

実施例 1 と同様に表 29 に示す負の誘電異方性液晶を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1～4 を用いて実施例 41～48 の液晶表示装置作成し、その VHR 及び ID を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 30～31 に示す。

【0186】

【表 2 9】

	液晶組成物1 1	液晶組成物1 2
3-Cy-10-Ch3-5	2	
3-Cy-2-Ph5-O2	6	10
3-Cy-Ph5-O2		10
4-Cy-10-Nd4-O2	5	5
5-Cy-10-Ch3-5	2	
0d1-Cy-Cy-5		16
3-Cy-1=1-Cy-3		10
3-Cy-Cy-2	15	
3-Cy-Cy-4	7	
3-Cy-Cy-5	7	
3-Cy-Ph-O1	6	
3-Cy-2-Cy-10-Nd4-O2	3	
3-Cy-2-Cy-10-Nd4-O3	3	
3-Cy-Cy-10-Ch3-5	2	
3-Cy-Cy-2-Ph5-O2	7	10
3-Cy-Cy-Ph5-1	7	10
3-Cy-Cy-Ph5-O2	7	10
4-Cy-Cy-10-Ch3-5	2	
5-Cy-Cy-10-Nd4-O3	5	5
0d1-Cy-Cy-Ph-1		14
3-Cy-Cy-Ph-1	14	
組成比計	100	100
T _{ni} /°C	87	85
Δn(20°C)	0.086	0.085
η ₂₀ /mPa·s	24.2	23.8
Δε(20°C)	-2.7	-2.5

10

20

30

【 0 1 8 7 】

【表 3 0】

	実施例 4 1	実施例 4 2	実施例 4 3	実施例 4 4
液晶組成物	液晶組成物 1 1	液晶組成物 1 1	液晶組成物 1 1	液晶組成物 1 1
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.7	99.6	99.3	99.2
I D	13	18	39	58
焼き付き	◎	◎	◎	◎

40

【 0 1 8 8 】

【表 3 1】

	実施例 4 5	実施例 4 6	実施例 4 7	実施例 4 8
液晶組成物	液晶組成物 1 2	液晶組成物 1 2	液晶組成物 1 2	液晶組成物 1 2
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.7	99.5	99.3	99.1
ID	12	22	42	62
焼き付き	◎	◎	◎	◎

【 0 1 8 9 】

10

実施例 4 1 ~ 4 8 の液晶表示装置は、高い V H R 及び小さい I D を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 1 9 0 】

(実施例 4 9 ~ 6 0)

実施例 1 と同様に表 3 2 に示す負の誘電異方性液晶を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 4 9 ~ 6 0 の液晶表示装置作成し、その V H R 及び I D を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 3 3 ~ 3 5 に示す。

【 0 1 9 1 】

【表 3 2】

	液晶組成物1 3	液晶組成物1 4	液晶組成物1 5
3-Cy-1O-Ch3-5	3		
3-Cy-1O-Nd4-O4	3		4
5-Cy-1O-Ch3-5	3		
5-Cy-1O-Nd4-O2	2	4	4
5-Cy-1O-Nd4-O3	3	4	4
3-Cy-Cy-2	7	21	11
3-Cy-Cy-4	11	7	7
3-Cy-Cy-5	11	7	7
3-Cy-Ph-2			6
3-Cy-Ph-O1	7	13	7
3-Cy-Ph-O2	7	13	7
5-Ph-Ph-1	6		13
2-Cy-Cy-1O-Nd4-O2	3	4	4
2-Cy-Cy-1O-Nd4-O4	2		
3-Cy-2-Cy-1O-Nd4-O2	3	4	4
3-Cy-2-Cy-1O-Nd4-O3	3	4	4
3-Cy-Cy-1O-Ch3-5	2	3	
3-Cy-Cy-1O-Nd4-O4	3	4	4
4-Cy-Cy-1O-Ch3-5	2	3	
4-Cy-Cy-1O-Nd4-O2	2		
3-Cy-Cy-Ph-1	8	9	6
3-Cy-Ph-Ph-1	9		6
組成比計(%)	100	100	98
T _{ni} /°C	86	81	76
Δn(20°C)	0.091	0.082	0.104
η 20/mPa・s	20	19.2	17.8
Δε (20°C)	-2.7	-2.5	-2.3

【 0 1 9 2 】

【表 3 3】

	実施例 4 9	実施例 5 0	実施例 5 1	実施例 5 2
液晶組成物	液晶組成物 1 3	液晶組成物 1 3	液晶組成物 1 3	液晶組成物 1 3
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.2	99.1
I D	20	25	49	65
焼き付き	◎	◎	◎	○

【 0 1 9 3 】

【表 3 4】

	実施例 5 3	実施例 5 4	実施例 5 5	実施例 5 6
液晶組成物	液晶組成物 1 4	液晶組成物 1 4	液晶組成物 1 4	液晶組成物 1 4
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.2	99.0
I D	19	25	53	75
焼き付き	◎	◎	◎	○

【 0 1 9 4 】

10

【表 3 5】

	実施例 5 7	実施例 5 8	実施例 5 9	実施例 6 0
液晶組成物	液晶組成物 1 5	液晶組成物 1 5	液晶組成物 1 5	液晶組成物 1 5
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.1	99.0
I D	19	24	57	77
焼き付き	◎	◎	○	○

【 0 1 9 5 】

20

実施例 4 9 ~ 6 0 の液晶表示装置は、高い V H R 及び小さい I D を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 1 9 6 】

(実施例 6 1 ~ 7 6)

実施例 1 と同様に表 3 6 に示す負の誘電異方性液晶を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 6 1 ~ 7 6 の液晶表示装置作成し、その V H R 及び I D を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 3 7 ~ 4 0 に示す。

【 0 1 9 7 】

【表 3 6】

	液晶組成物 16	液晶組成物 17	液晶組成物 18	液晶組成物 19
3-Cy-10-Ph5-O2		2		11
5-Cy-10-Ph5-O2		2		10
0d1-Cy-Cy-3			30	
0d1-Cy-Cy-5	4	4	10	20
0d3-Cy-Cy-3				10
3-Cy-1=1-Cy-3				10
3-Cy-Cy-2	4	4		
3-Cy-Cy-4	4	4		
3-Cy-Cy-5	4	4		
3-Cy-Ph-O1	2	2		
5-Ph-Ph-1	20	20		
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-1d0				12
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-2	7	8	10	
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-3	7	8	12	
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-4	7	8	12	
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-5	5		10	
0d1-Cy-Cy-10-Ph5-O3d0	13		6	
0d1-Cy-Cy-10-Ph5-O4d0	13		6	
2-Cy-Cy-10-Ph5-O2		13		5
3-Cy-Cy-10-Ph5-O2		13		12
4-Cy-Cy-10-Ph5-O2		13		5
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-Cy-2	5		2	5
0d1-Cy-10-Ph5-O1-Cy-Cy-3	5	5	2	
組成比計(%)	100	110	100	100
T _{ni} /°C	80.5	79.8	83.6	83.1
Δn(20°C)	0.102	0.101	0.075	0.075
η 20/mPa·s	23.9	27.6	15.1	18
Δε(20°C)	-4.1	-4.1	-4.8	-4.8

【0198】

【表 3 7】

	実施例 6 1	実施例 6 2	実施例 6 3	実施例 6 4
液晶組成物	液晶組成物 1 6	液晶組成物 1 6	液晶組成物 1 6	液晶組成物 1 6
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.2	99.1
ID	22	29	53	76
焼き付き	◎	◎	◎	○

【0199】

【表 3 8】

	実施例 6 5	実施例 6 6	実施例 6 7	実施例 6 8
液晶組成物	液晶組成物 1 7	液晶組成物 1 7	液晶組成物 1 7	液晶組成物 1 7
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.4	99.3	99.0	98.9
I D	34	40	81	97
焼き付き	◎	◎	○	○

【 0 2 0 0 】

10

【表 3 9】

	実施例 6 9	実施例 7 0	実施例 7 1	実施例 7 2
液晶組成物	液晶組成物 1 8	液晶組成物 1 8	液晶組成物 1 8	液晶組成物 1 8
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.6	99.5	99.3	99.1
I D	17	27	44	82
焼き付き	◎	◎	◎	○

【 0 2 0 1 】

20

【表 4 0】

	実施例 7 3	実施例 7 4	実施例 7 5	実施例 7 6
液晶組成物	液晶組成物 1 9	液晶組成物 1 9	液晶組成物 1 9	液晶組成物 1 9
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.6	99.4	99.1	99.0
I D	18	35	85	99
焼き付き	◎	◎	○	○

【 0 2 0 2 】

30

実施例 6 1 ~ 7 6 の液晶表示装置は、高い V H R 及び小さい I D を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 2 0 3 】

(実施例 7 7 ~ 9 2)

実施例 1 と同様に表 4 1 に示す負の誘電異方性液晶を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 7 7 ~ 9 2 の液晶表示装置作成し、その V H R 及び I D を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 4 2 ~ 4 5 に示す。

【 0 2 0 4 】

【表 4 1】

	液晶組成物2 0	液晶組成物2 1	液晶組成物2 2	液晶組成物2 3
2-Cy-2-Nd4-O2		10		10
3-Cy-10-Ch3-O5	7		10	
3-Cy-2-Nd4-O4		10		10
4-Cy-2-Nd4-O2		10		10
5-Cy-10-Ch3-O5	7		10	
5-Cy-2-Nd4-O2		5		5
0d1-Cy-Cy-3	30	40		
0d1-Cy-Cy-5			15	20
3-Cy-Cy-4			15	14
3-Cy-Ph-O2				10
5-Ph-Ph-1	10		10	
2-Cy-Cy-2-Nd4-O2		4		4
3-Cy-Cy-10-Ph5-O1	4		3	
3-Cy-Cy-10-Ph5-O2	9		5	
3-Cy-Cy-2-Ph5-O2	10		10	
3-Cy-Cy-Ph5-O2	10		10	
4-Cy-Cy-10-Ph5-O1	4		3	
4-Cy-Cy-2-Nd4-O2		4		4
0d1-Cy-Cy-Ph-1	9	6	9	4
0d1-Cy-Ph-Ph-3		5		3
0d3-Cy-Cy-Ph-1		6		6
組成比計(%)	100	100	100	100
T _{ni} /°C	82.7	82.3	80.9	81.8
Δn(20°C)	0.087	0.098	0.084	0.097
η 20/mPa・s	19.4	18.1	26	22.7
Δε (20°C)	-3.1	-3.1	-3.1	-3.2

【 0 2 0 5 】

【表 4 2】

	実施例 7 7	実施例 7 8	実施例 7 9	実施例 8 0
液晶組成物	液晶組成物 2 0	液晶組成物 2 0	液晶組成物 2 0	液晶組成物 2 0
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.7	99.5	99.3	99.2
I D	15	22	64	76
焼き付き	◎	◎	◎	◎

【 0 2 0 6 】

【表 4 3】

	実施例 8 1	実施例 8 2	実施例 8 3	実施例 8 4
液晶組成物	液晶組成物 2 1	液晶組成物 2 1	液晶組成物 2 1	液晶組成物 2 1
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.1	98.9
I D	31	39	89	98
焼き付き	◎	◎	○	○

10

20

30

40

50

【 0 2 0 7 】

【 表 4 4 】

	実施例 8 5	実施例 8 6	実施例 8 7	実施例 8 8
液晶組成物	液晶組成物 2 2	液晶組成物 2 2	液晶組成物 2 2	液晶組成物 2 2
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.6	99.4	99.2	99.1
I D	24	36	84	90
焼き付き	◎	◎	◎	○

10

【 0 2 0 8 】

【 表 4 5 】

	実施例 8 9	実施例 9 0	実施例 9 1	実施例 9 2
液晶組成物	液晶組成物 2 3	液晶組成物 2 3	液晶組成物 2 3	液晶組成物 2 3
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.1	99.0
I D	35	38	84	92
焼き付き	◎	◎	○	○

20

【 0 2 0 9 】

実施例 7 7 ~ 9 2 の液晶表示装置は、高い V H R 及び小さい I D を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 2 1 0 】

(実施例 9 3 ~ 1 0 0)

実施例 1 と同様に表 4 6 に示す負の誘電異方性液晶を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 9 3 ~ 1 0 0 の液晶表示装置作成し、その V H R 及び I D を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 4 7 ~ 4 8 に示す。

30

【 0 2 1 1 】

【表 4 6】

	液晶組成物24	液晶組成物25
3-Cy-Ph5-O4	9	10
3O-Ph5-Ph5-O2	8	
5-Cy-Ph5-O4	9	10
0d1-Cy-Cy-5	5	
0d1-O-Cy-Cy-Ph5-1		10
0d2-Cy-Cy-Ph5-O2	10	
0d2-O-Cy-Cy-Ph5-1		10
1d2-O-Cy-Cy-Ph5-1		8
2-Cy-Cy-Ph5-1	11	12
2-Cy-Cy-Ph5-O2	9	10
3-Cy-Cy-Ph5-1	10	11
3-Cy-Cy-Ph5-O2	10	10
3-O-Cy-Cy-Ph5-O2	10	
5-Cy-Cy-Ph5-O2	9	9
組成比計 (%)	100	100
T _{ni} /°C	101.2	103.9
Δn(20°C)	0.100	0.098
n _e (20°C)	1.581	1.579
Δε(20°C)	-7.5	-5.5
ε _⊥ (20°C)	11.9	9.5
K3/K1(20°C)	1.08	1.16
K1/pN(20°C)	15.8	16.5

10

20

【0 2 1 2】

【表 4 7】

	実施例 9 3	実施例 9 4	実施例 9 5	実施例 9 6
液晶組成物	液晶組成物 2 4	液晶組成物 2 4	液晶組成物 2 4	液晶組成物 2 4
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.8	99.6	99.4	99.3
I D	12	18	44	71
焼き付き	◎	◎	◎	◎

30

【0 2 1 3】

【表 4 8】

	実施例 9 7	実施例 9 8	実施例 9 9	実施例 1 0 0
液晶組成物	液晶組成物 2 5	液晶組成物 2 5	液晶組成物 2 5	液晶組成物 2 5
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.6	99.5	99.3	99.2
I D	18	32	49	66
焼き付き	◎	◎	◎	◎

40

【0 2 1 4】

実施例 9 3 ~ 1 0 0 の液晶表示装置は、高い V H R 及び小さい I D を実現できた。また

50

、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 2 1 5 】

(実施例 1 0 1 ~ 1 1 2)

実施例 1 と同様に表 4 9 に示す負の誘電異方性液晶を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 1 0 1 ~ 1 1 2 の液晶表示装置作成し、その V H R 及び I D を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 5 0 ~ 5 2 に示す。

【 0 2 1 6 】

【 表 4 9 】

	液晶組成物2 6	液晶組成物2 7	液晶組成物2 8
3-Cy-Ph5-O4	16	16	16
5-Cy-Ph5-O2	12	16	16
0d1-Cy-Cy-5	7	4	10
0d3-Ph-Ph-1	11	10	10
1d1-Cy-Cy-3	9	8	
2-Cy-Ph-Ph5-O2	13	12	12
3-Cy-Cy-Ph5-O2	6	7	10
3-Cy-Ph-Ph5-O2	12	12	12
0d1-Cy-Cy-Ph-1	4	4	4
3-Cy-Ph-Ph-2	10	11	10
組成比計	100	100	100
Tni/°C	80.2	80.3	80.9
$\Delta n(20^{\circ}\text{C})$	0.128	0.129	0.126
ne(20°C)	1.492	1.491	1.491
$\Delta \varepsilon(20^{\circ}\text{C})$	-3.3	-3.5	-3.7
$\varepsilon \perp(20^{\circ}\text{C})$	6.8	7.1	7.4
K3/K1(20°C)	0.99	1.01	1.04
K1/pN(20°C)	16.7	15.2	16.4

【 0 2 1 7 】

【 表 5 0 】

	実施例 1 0 1	実施例 1 0 2	実施例 1 0 3	実施例 1 0 4
液晶組成物	液晶組成物 2 6	液晶組成物 2 6	液晶組成物 2 6	液晶組成物 2 6
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.6	99.5	99.3	99.2
I D	21	36	51	72
焼き付き	◎	◎	◎	◎

【 0 2 1 8 】

【表 5 1】

	実施例 1 0 5	実施例 1 0 6	実施例 1 0 7	実施例 1 0 8
液晶組成物	液晶組成物 2 7	液晶組成物 2 7	液晶組成物 2 7	液晶組成物 2 7
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.6	99.5	99.2	99.1
I D	19	30	80	92
焼き付き	◎	◎	◎	○

【 0 2 1 9 】

10

【表 5 2】

	実施例 1 0 9	実施例 1 1 0	実施例 1 1 1	実施例 1 1 2
液晶組成物	液晶組成物 2 8	液晶組成物 2 8	液晶組成物 2 8	液晶組成物 2 8
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.2	99.1
I D	28	40	78	89
焼き付き	◎	◎	◎	○

【 0 2 2 0 】

20

実施例 1 0 1 ~ 1 1 2 の液晶表示装置は、高い V H R 及び小さい I D を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 2 2 1 】

(実施例 1 1 3 ~ 1 2 4)

実施例 1 と同様に表 5 3 に示す負の誘電異方性液晶を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 1 0 1 ~ 1 1 2 の液晶表示装置作成し、その V H R 及び I D を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 5 4 ~ 5 6 に示す。

【 0 2 2 2 】

30

【表 5 3】

	液晶組成物2 9	液晶組成物3 0	液晶組成物3 1
3-Cy-Ph5-O4	16	16	16
5-Cy-Ph5-O2	12	16	16
0d1-Cy-Cy-5	12	10	20
0d3-Ph-Ph-1	6	4	
1d1-Cy-Cy-3	9	8	
2-Ph-Ph5-Ph-2	13	12	12
3-Cy-Cy-Ph5-O2	6	7	10
3-Cy-Ph-Ph5-O2	12	12	12
0d1-Cy-Cy-Ph-1	4	4	4
3-Cy-Ph-Ph-2	10	11	10
組成比計	100	100	100
T _{ni} /°C	81.7	81.2	80.9
Δn(20°C)	0.127	0.130	0.131
n _e (20°C)	1.494	1.495	1.498
Δε(20°C)	-3.0	-3.3	-3.6
ε _⊥ (20°C)	6.9	7.2	7.5
K3/K1(20°C)	1.02	1.03	1.06
K1/pN(20°C)	15.8	15.6	16.2

10

20

【0 2 2 3】

【表 5 4】

	実施例 1 1 3	実施例 1 1 4	実施例 1 1 5	実施例 1 1 6
液晶組成物	液晶組成物 2 9	液晶組成物 2 9	液晶組成物 2 9	液晶組成物 2 9
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.7	99.5	99.3	99.2
ID	14	30	55	79
焼き付き	◎	◎	◎	◎

30

【0 2 2 4】

【表 5 5】

	実施例 1 1 7	実施例 1 1 8	実施例 1 1 9	実施例 1 2 0
液晶組成物	液晶組成物 3 0	液晶組成物 3 0	液晶組成物 3 0	液晶組成物 3 0
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.6	99.5	99.2	99.1
ID	17	33	64	82
焼き付き	◎	◎	◎	○

40

【0 2 2 5】

【表 5 6】

	実施例 1 2 1	実施例 1 2 2	実施例 1 2 3	実施例 1 2 4
液晶組成物	液晶組成物 3 1	液晶組成物 3 1	液晶組成物 3 1	液晶組成物 3 1
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.7	99.6	99.3	99.2
ID	20	27	59	74
焼き付き	◎	◎	◎	◎

【 0 2 2 6 】

10

実施例 1 1 3 ~ 1 2 4 の液晶表示装置は、高い V H R 及び小さい I D を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 2 2 7 】

(実施例 1 2 5 ~ 1 2 8)

実施例 1 と同様に表 5 7 に示す負の誘電異方性液晶を挟持し、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 1 2 5 ~ 1 2 8 の液晶表示装置作成し、その V H R 及び I D を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 5 8 に示す。

【 0 2 2 8 】

【表 5 7】

20

	液晶組成物 3 2
Od1-Cy-Cy-5	20
3-Cy-2-Ph5-O2	20
Od1-Cy-Cy-Ph-1	5
5-Cy-2-Ph5-O2	20
3-Cy-Cy-2-Ph5-O2	3
5-Cy-Cy-Ph5-O2	3
3-Cy-Ph-Ph5-O2	5
3-Ph-Ph-Ph-2	7
4-Ph-Ph-Ph-2	7
3-Cy-Cy-VO-Ph-Cy-3	4
3-Cy-Cy-VO-Ph-Cy-4	3
3-Cy-Cy-VO-Ph-Cy-5	3
組成比計	100
Tni/°C	81.6
$\Delta n(20^\circ\text{C})$	0.127
$n_e(20^\circ\text{C})$	1.495
$\Delta \varepsilon(20^\circ\text{C})$	-3.0

30

40

【 0 2 2 9 】

【表 5 8】

	実施例 1 2 5	実施例 1 2 6	実施例 1 2 7	実施例 1 2 8
液晶組成物	液晶組成物 3 2	液晶組成物 3 2	液晶組成物 3 2	液晶組成物 3 2
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.2	99.1
ID	24	39	64	88
焼き付き	◎	◎	◎	○

【 0 2 3 0 】

10

実施例 1 2 5 ~ 1 2 8 の液晶表示装置は、高い VHR 及び小さい ID を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 2 3 1 】

(実施例 1 2 9 ~ 1 3 2)

実施例 1 で用いた負の誘電異方性を有する液晶組成物 1 に 2 - メチル - アクリル酸 4 ' - { 2 - [4 - (2 - アクリロイルオキシ - エチル) - フェノキシカルボニル] - エチル } - ビフェニル - 4 - イルエステル 0 . 3 質量 % を混合し液晶組成物 3 3 とした。実施例 1 で用いた VA セルにこの液晶組成物 3 3 を挟持し、電極間に駆動電圧を印加したまま、紫外線を 6 0 0 秒間照射 (3 . 0 J / c m ²) し、重合処理を行い、次に、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 1 2 9 ~ 1 3 2 の液晶表示装置を作成し、その VHR 及び ID を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 5 9 に示す。

20

【 0 2 3 2 】

【表 5 9】

	実施例 1 2 9	実施例 1 3 0	実施例 1 3 1	実施例 1 3 2
液晶組成物	液晶組成物 3 3	液晶組成物 3 3	液晶組成物 3 3	液晶組成物 3 3
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.0	98.8
ID	23	43	78	97
焼き付き	◎	◎	○	○

30

【 0 2 3 3 】

実施例 1 2 9 ~ 1 3 2 の液晶表示装置は、高い VHR 及び小さい ID を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 2 3 4 】

(実施例 1 3 3 ~ 1 3 6)

負の誘電異方性を有する液晶組成物 2 9 にビスメタクリル酸ビフェニル - 4 , 4 ' - ジイル 0 . 3 質量 % を混合し液晶組成物 3 4 とした。実施例 1 で用いた VA セルにこの液晶組成物 3 0 を挟持し、電極間に駆動電圧を印加したまま、紫外線を 6 0 0 秒間照射 (3 . 0 J / c m ²) し、重合処理を行い、次に、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 1 3 3 ~ 1 3 6 の液晶表示装置を作成し、その VHR 及び ID を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 6 0 に示す。

40

【 0 2 3 5 】

【表 6 0】

	実施例 1 3 3	実施例 1 3 4	実施例 1 3 5	実施例 1 3 6
液晶組成物	液晶組成物 3 4	液晶組成物 3 4	液晶組成物 3 4	液晶組成物 3 4
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.5	99.4	99.2	99.1
I D	25	40	76	92
焼き付き	◎	◎	◎○	○

【 0 2 3 6 】

10

実施例 1 3 3 ~ 1 3 6 の液晶表示装置は、高い V H R 及び小さい I D を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【 0 2 3 7 】

(実施例 1 3 7 ~ 1 4 0)

負の誘電異方性を有する液晶組成物 3 2 にビスメタクリル酸 3 - フルオロビフェニル - 4 , 4 ' - ジイル 0 . 3 質量 % を混合し液晶組成物 3 5 とした。実施例 1 で用いた V A セルにこの液晶組成物 3 5 を挟持し、電極間に駆動電圧を印加したまま、紫外線を 6 0 0 秒間照射 (3 . 0 J / c m ²) し、重合処理を行い、次に、表 8 に示すカラーフィルタ 1 ~ 4 を用いて実施例 1 3 7 ~ 1 4 0 の液晶表示装置を作成し、その V H R 及び I D を測定した。また、その液晶表示装置の焼き付き評価を行った。その結果を表 6 1 に示す。

20

【 0 2 3 8 】

【表 6 1】

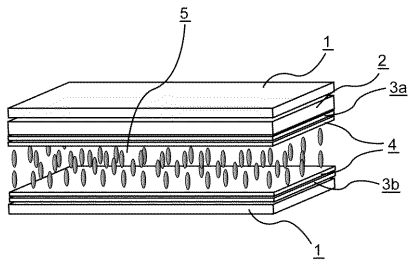
	実施例 1 3 7	実施例 1 3 8	実施例 1 3 9	実施例 1 4 0
液晶組成物	液晶組成物 3 5	液晶組成物 3 5	液晶組成物 3 5	液晶組成物 3 5
カラーフィルタ	カラーフィルタ 1	カラーフィルタ 2	カラーフィルタ 3	カラーフィルタ 4
VHR	99.6	99.5	99.2	99.0
I D	23	33	74	95
焼き付き	◎	◎	◎	○

30

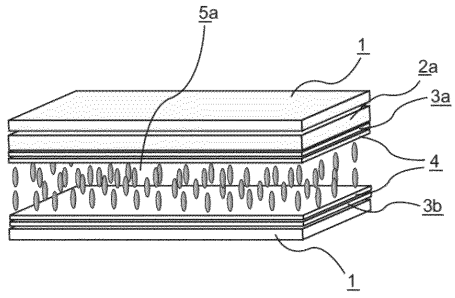
【 0 2 3 9 】

実施例 1 3 7 ~ 1 4 0 の液晶表示装置は、高い V H R 及び小さい I D を実現できた。また、焼き付き評価においても残像がないか、又はあってもごく僅かであり許容できるレベルであった。

【図 1】



【図 2】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.		F I	
C 0 9 K	19/30	(2006.01)	C 0 9 K 19/30
C 0 9 K	19/14	(2006.01)	C 0 9 K 19/14
C 0 9 B	67/20	(2006.01)	C 0 9 B 67/20 F
C 0 9 B	67/54	(2006.01)	C 0 9 B 67/20 G
			C 0 9 B 67/54 Z

(72)発明者 鷺海 功
 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地 ワテラストワー
 式会社内 D I C 株

(72)発明者 嶋田 勝徳
 千葉県佐倉市坂戸631番地 D I C 株式会社 総合研究所内

審査官 磯野 光司

(56)参考文献 特許第5333879(JP, B2)
 特許第5333880(JP, B2)
 国際公開第2013/133383(WO, A1)
 特開2000-192040(JP, A)
 国際公開第2011/092973(WO, A1)
 特開2005-281559(JP, A)
 特開2011-141356(JP, A)
 特開2010-189560(JP, A)
 特開2006-317602(JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G 0 2 F 1 / 1 3
 G 0 2 F 1 / 1 3 3 5
 G 0 2 B 5 / 2 0
 C 0 9 K 1 9 / 0 0 - 1 9 / 6 0

专利名称(译)	液晶表示装置		
公开(公告)号	JP5761456B2	公开(公告)日	2015-08-12
申请号	JP2014515394	申请日	2013-08-22
[标]申请(专利权)人(译)	大日本油墨化学工业株式会社		
申请(专利权)人(译)	DIC公司		
当前申请(专利权)人(译)	DIC公司		
[标]发明人	金親昌和 竹内清文 船倉省二 鷺海功 嶋田勝徳		
发明人	金親 昌和 竹内 清文 船倉 省二 鷺海 功 嶋田 勝徳		
IPC分类号	G02F1/1335 G02F1/13 G02B5/20 C09K19/42 C09K19/32 C09K19/30 C09K19/14 C09B67/20 C09B67/54		
CPC分类号	C09K19/3001 C09B67/0033 C09B67/009 C09K19/20 C09K19/3003 C09K19/322 C09K19/3402 C09K19/56 C09K2019/0448 C09K2019/0466 C09K2019/122 C09K2019/123 C09K2019/3004 C09K2019/3009 C09K2019/301 C09K2019/3016 C09K2019/305 C09K2019/3078 C09K2019/325 C09K2019/3425 C09K2019/523 G02B5/201 G02F1/1334 G02F1/133512 G02F1/133514 G02F2001/133397		
FI分类号	G02F1/1335.505 G02F1/13.500 G02B5/20.101 C09K19/42 C09K19/32 C09K19/30 C09K19/14 C09B67/20.F C09B67/20.G C09B67/54.Z		
代理人(译)	河野 通洋		
优先权	2012199423 2012-09-11 JP		
其他公开文献	JPWO2014041985A1		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

本发明涉及到使用利用与特定的液晶组合物中的特定颜料的滤色器的液晶显示装置。 本发明的目的是提供在液晶层 (VHR) 的电压保持率降低, 并防止在离子密度 (ID), 白点, 取向不均的增加, 为了解决显示缺陷的问题, 例如癫痫发作的液晶显示装置它是。本发明的液晶显示装置具有防止液晶层的电压保持率 (VHR) 降低, 离子密度 (ID) 增加, 抑制图像残留等显示不良的发生的特征。 VA模式用于矩阵驱动, PSVA模式液晶显示器件, 液晶电视, 显示器, 手机, 智能手机等液晶它可以应用于显示设备。

(21) 出願番号	特願2014-515394 (P2014-515394)	(73) 特許権者	000002886
(86) (22) 出願日	平成25年8月22日 (2013. 8. 22)		D I C株式会社
(86) 国際出願番号	PCT/JP2013/072425		東京都板橋区坂下3丁目3番58号
(87) 国際公開番号	W02014/041985	(74) 代理人	100124970
(87) 国際公開日	平成26年3月20日 (2014. 3. 20)		弁理士 河野 通洋
審査請求日	平成26年4月2日 (2014. 4. 2)	(72) 発明者	金 頼 昌和
(31) 優先権主張番号	特願2012-199423 (P2012-199423)		埼玉県北足立郡伊奈町小室4472-1D
(32) 優先日	平成24年9月11日 (2012. 9. 11)		I C株式会社 埼玉工場内
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)	(72) 発明者	竹内 清文
早期審査対象出願			埼玉県北足立郡伊奈町小室4472-1D
前置審査			I C株式会社 埼玉工場内
		(72) 発明者	船倉 省二
			茨城県神栖市栗深芝18番地D I C株式会
			社 鹿島工場内
最終頁に続く			